

山形大学人文学部

研究年報

第 5 号

別 冊

平成 18 年度研究・教育活動報告

平成 20 年 2 月

山形大学人文学部

平成 18 年度研究・教育活動報告

人間文化学科

人間文化学講座（人間学系）

阿子島 功

(1) 研究成果

- ・坂井正人・阿子島 功・渡邊洋一・門間政亮（2006.7）人工衛星がとらえた「新発見」のナスカ地上絵。ニュートン，26-7, pp.121
- ・阿子島 功（2006.9）押出遺跡の立地環境——その成立と廃絶にかかわる地形変化——。山形県埋蔵文化財調査報告書 150「押出遺跡発掘調査報告書」，pp.95-104
- ・阿子島 功（2007.3）ペルー，ナスカ台地とその周辺の地形・地質。山形応用地質，28，pp.7-13
- ・AKOJIMA,I.(2007.3) Mapa de Clasificacion Geomorfologico de las Pampas de Nasca,Peru. Estudio Preliminar de Las Lines y Geoglifos de Nasca: Una investigacion Interdisciplinaria (Masato Sakai y Isao AKOJIMA editores), Universidad de Yamagata,Japon,41-59

[口頭発表]

- ・阿子島 功（2006.5）ペルー，ナスカ台地の地上絵と微地形。東北地理学会。（季刊地理学 59-3, pp. 189-190）
- ・阿子島 功（2006.5）山形市，馬見ヶ崎川扇状地の明るい水争い。都市の水辺空間シンポジウム（仙台）
- ・AKOJIMA, I. and FURUYA,T.(2006.6)Some Problems in the Explanation of Hill-slope Processes in Semi-arid Forest-Steppe Zone of Central Mongolia. ABSTRACTS, Joint International Meeting, Environmental Changes and Earth Surface Processes in Semi-arid and Temperate Areas, Ulaanbatop. Mongol, p.7; (地形，27-4, pp.481 再録)
- ・AKOJIMA, I.(2006.8)Sankyo Site and Mizusawa site in Nishikawa Town, Dewa Hills---Some Examples of Archeology of Landslide and Debris Avalanche --- Diagnosis of Stable Slopes and Unstable Slopes by Archeological Excavation Method. 2006 Korea-Japan/Japan-Korea Geo-morphological Conference, Sendai, Japan. pp.135-138
- ・阿子島 功（2007.3）ペルー，ナスカ台地の 1500 年間の地形変化。日本地理学会予稿集，71，p. 217

(2) 教育，地域連携等の活動

[授業]

環境地理学 (I)，地圏環境論，環境地理学演習，環境地理学調査実習，コミュニティ環境基礎，地図を読む（教養教育 地理学），大地の科学（教養教育 地球科学），環境地理学特論 I, II, 同特別演習（修士課程）

[地域との連携活動]

（財）山形県埋蔵文化財センター（外部）理事，（財）山形県建設技術センター（外部）理事，山形県環境審議会委員（環境保全部会部会長，温泉部会委員），山形市環境審議会（委員長），上市市洪水ハザードマップ検討委員会，宮城県栗原市国指定史跡山王冨遺跡保存検討委員会，山形市国指定史跡

山寺保存検討委員会, 東根市小見川イバラトミオ検討委員会 (小見川塾 塾長 03.11~), 中山町公民館「山形学」ふるさと歴史セミナー講座 (2006.8) 白鷹丘陵の石と土
〔受託研究〕平成 18, 19 年度土地分類基本調査 1 : 50,000 地形分類「飯豊山・大日岳」図幅調査, 山形県

〔学会活動〕平成 16-19 年 東北地理学会評議員 (平成 19 年 5 月—東北地理学会会長)

石原 敏道

(1) 研究成果

情報教育事典の「生涯発達」の執筆, 丸善, 2008. 1 発行

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業: パーソナリティ, 個性化〔教養科目〕, 心理学基礎, 認知心理学, 認知心理学演習, 行動科学実験, 行動科学特殊実験, 卒業論文指導

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 20 年 3 月をもって定年を迎える。マンダラ思考なる概念で統一的把握を試みてきたが, 未だ, 未完成なのが残念である。

阿部 八郎

(1) 研究成果

『浮雲』の心話文 2006 (平成 18). 12.15『近代語研究』第 13 集 (武蔵野書院) pp.335-344

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔地域教育機関との交流〕

2006.8.2 総合的な学習 新庄南高校生徒 (1 名)

〔研究地での地域住民との交流〕

2007.3.28 他 新潟県関川村住民 (村長・教育長・有志) との交流

〔授業担当〕

日本語文法論特論, 日本語文法論特別演習, 日本語文法論特別研究, 日本語史特殊講義, 日本語学特殊講義, 日本語学講読, 日本語学演習, 日本語の基礎, 卒業論文指導

上田 弘毅

(1) 研究成果

「王陽明に於ける近代化への可能性とその限界」(共著 2006 年 12 月汲古書院『明清はいかなる時代であったか』)

古川 英明

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔教養教育〕

前期 「ピュシスとノモス (哲学)」

後期 「観念の理論と原子論 (哲学)」

〔専門教育〕

ラテン語上級 1・前期 (松本悦治『ラテン語読本』(Vita Romana))

ラテン語上級 2・前期 (松本悦治『ラテン語読本』(Vita Romana))

ラテン語上級 3・前期 (小林標『ラテン語文選』(Anthologia Latina))

ラテン語上級 2・後期 (松本悦治『ラテン語読本』(Vita Romana) [前期からの継続])
ラテン語上級 3・後期 (小林標『ラテン語文選』(Anthologia Latina) [前期からの継続])
哲学基礎・後期 (「哲学 (philosophia) の成立について」)
古代中世哲学史・後期 (「アテーナイ民主政とソクラテースの死」)
哲学講読・後期 (E.J.Lowe, Locke on Human Understanding, Ch.2 Ideas)
哲学史演習・前期 (プラトーン『ソクラテースの弁明』)
哲学史演習・後期 (デカルト『省察』)

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

「ラテン語上級 1」は TE さんとの 2 年目の勉強, 「2」は TU さんと同じテキストを最初から, 「3」は S さんと別のテキストを勉強した。「古代中世哲学史」の最後の講義を引き受けた。この勉強を論文に出来ればとの考えは甘かった。『弁明』の他対話篇二篇と Perikles の国葬演説を読む (というより, 字面を追う) だけで終わった。素人には弁説する Sokrates の内面まではとても読み取れない。難しさを痛感している。

渡邊 洋一

(1) 研究成果

[学会発表]

・渡邊洋一「ナスカ台地の認知地図 (2) —ライン・センターの役割—」, 東北心理学会・北海道心理学会第 10 回合同大会, 2006 年 9 月 30 日, 東北福祉大学.

[公開シンポジウム]

・『ナスカの地上絵—謎の解明と保護計画に向けて—』渡邊洋一「ナスカ台地の認知地図—人々はいかにしてナスカ台地を歩いたのか—」, 2006 年 7 月 15 日, 山形大学.

[報告書]

・山形大学 1 学部・部門 1 プロジェクト (平成 16・17 年度)「世界遺産「ナスカの地上絵」に関する学際的研究—制作目的の解明と保護計画の策定—」報告書, 第 3 章 渡邊洋一「人々はいかにしてナスカ台地を歩いたのか」(未公刊)

・Masato Sakai e Isao Akojima (editores) “Estudio Preliminar de Las Lineas y Geoglifos de Nasca”, Capitulo 3 Yoichi Watanabe “Mapa Cognoscitivo sobre las Pampas de Nasca: Un Acercamiento Psicologico a las Lineas de Nasca”, 2007 年 3 月.

(2) 教育, 地域貢献等の活動

[担当授業]

実験心理学入門 (教養教育科目), 心理学基礎, 心理学概論, 心理行動論演習, 行動科学実験, 行動科学特殊実験, 行動科学情報処理実習 (以上専門教育科目), 実験心理学特論, 実験心理学特別演習 (以上, 大学院授業科目), コミュニケーション論 (医学部看護科オムニバス講義).

[卒論指導等]

4 年生 7 名の卒業論文のための研究を指導.

[学外活動]

・自動車事故対策機構適性診断専門員・運行管理者等一般講習会講師.
・大学コンソーシアム山形 講師 (酒田および山形).
・エリアキャンパス最上 大学祭 講師 (新庄).

(3) 平成 18 年度の研究教育活動に関するコメント

平成 16 年度秋以来のナスカ・プロジェクト研究と阿子島功教授を代表者とする科研費補助を受

けた研究もあわせ、分担研究者として、春と冬の 2 回ペルーで現地調査に従事した。これらの研究については、7 月に公開シンポジウムを開き、8 月に学長に報告書を提出するとともに、3 月にはスペイン語の報告書を作成しペルー文化庁にも提出した。

小熊 正久

(1) 研究成果

口頭発表：東北哲学学会シンポジウム提題（於山形大学）「フッサールとフルッサー—画像とテクノ画像について—」（2006.10.21.）。[内容は『東北哲学学会年報』No.23, 2007 に掲載]。

(2) 教育、地域連携等の活動

・平成 18 年度における授業（担当授業名）

「ギリシア哲学の世界観」（前）、「認識について」（後）、「人間文化基礎演習」（前）,

「哲学基礎」（前）、「哲学概論」（前）、「哲学特殊講義（一）」（後）,

「哲学講読」（前）、「現代哲学演習」（前、後）、「科学思想文化演習」（後）,

「ギリシア語」（前・後）。

・卒論指導：題目

「ニーチェにおけるニヒリズムと道徳の考察」、「信仰の逆説について」、[キルケゴールを素材とする研究]。

・公開講座

「『オイディプス王』とニーチェ」（山形大学公開講座（人文学部）『演劇論』において。2006.7.7.）。

・講演

「初期フッサールの空間論」（フォーラム「空間と眼差し」（2006.12.2, 新潟大学 CLLIC 講義室にて）。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関して：今後は、(1) 口頭発表に関連して現象学的観点からメディア（媒体）・画像関係の研究をすすめること、(2) 以前からの継続として「フッサールの空間論」が主な課題となる。

富田 かおる

(1) 研究成果

[論文]

・“Effects of word frequency values on speakers’ vowel articulation,” *Bulletin of Yamagata University (Humanities)* 16:2, 65-75. 2007.2

・“Discourse analyses of repeated personal names in stories,” *Language and Beyond: A Festschrift for Hiroshi Yonekura on the Occasion of his 65th Birthday*. Tokyo: Eichosha. 509-522. 2007.3

(2) 教育、地域連携等の活動

[教育]

ネットワークと情報言語、英作文（中級）、英作文（上級）、英語（R）、英語（C）担当

(3) 平成 18 年度の研究教育活動に関するコメント

英語教育における音声と字幕の提示方法の調査研究を行った。

磯野 暢祐

(1) 研究成果

[論文]

- ・「俗ラテン語における完了幹 -v- の脱落についての生理音声学的解釈」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』第 3 号, pp.45-54 (平成 18 年 7 月)

(2) 教育, 研究地域貢献等の活動

- ・教養教育として, フランス語Ⅰを週 4 コマ, フランス語Ⅱを週 4 コマ計 8 コマ担当。
- ・専門教育として, 音声学, ロマンズ語学, フランス語学演習, フランス文化購読, 人間文化基礎演習を担当。
- ・大学院では, 現代外国語フランス語を担当。

永野 由紀子

(1) 研究成果

・著書

『むらの資源を研究する』(共著) 日本村落研究会編, 農山漁村文化協会, 159~168 頁, 2007 年 3 月

・論文

「インドネシア・バリ島におけるグローバル・ツーリズム下での移住者の増加と伝統的生活様式の解体」(単著)『山形大学紀要(社会科学)』第 37 巻第 2 号, 161~208 頁, 2007 年 2 月。

(2) 教育, 地域貢献等の活動

・担当授業科目

社会を見る眼(教養教育), 社会学基礎, 社会変動論, 社会学概論, 地域情報論演習, 社会調査実習

・卒業論文

余暇と生きがい等についての卒業論文を指導した。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動についてのコメント

研究面では, 呼びかけ人の一人として「村落研究を語る会」を立ち上げ, 年 3 回の研究会を企画・運営する。また, 科学研究費補助金基盤研究(A)「ポスト占領体制」期地域住民組織の比較・歴史社会学的研究」(研究代表者吉原直樹)における東北大学とインドネシアのウダヤナ大学との共同研究の成果の一部を発表する。教育面では, 連絡責任者として社会調査士認定機構と連絡を取り, 人文学部の 3 年生に社会調査士(取得見込み)の資格の取得を仲介した。また, 自身も論文審査で専門社会調査士の資格を取得する。

池田 光則

(2) 教育, 地域貢献等の活動

[担当授業]

- ・学部専門教育科目: 言語学概論, 言語学演習, ラテン語(初級)
- ・教養教育科目: 言語学概論(言語学), 言語学とその周辺領域(言語学), 英語
- ・大学院: 言語学特論, 言語学特別演習

[卒業論文指導テーマ]

- ・ネーミングにおける音声の機能
- ・言語学的観点から見たウソについて

- ・山形県米沢市における幼児語に見られる方言
- ・日英語における慣用表現の対照研究

〔その他〕

山形県方言研究会事務局担当

清塚 邦彦

(1) 研究成果

〔研究業績〕

- ・論文「絵画における感情の表現について」『山形大学人文学部研究年報』第 4 号, 2007 年 2 月, 1-32 頁
- ・典項目執筆『現代倫理学事典』弘文堂, 2006 年 12 月 (「ストローソン」「グライス」「カスターニューダ」の三項目)。
- ・学会発表「ウォルトンの写真論とメディア」(東北哲学会第 56 回大会シンポジウム「画像とメディアの哲学」における提題), 山形大学, 2006 年 10 月

〔その他の研究活動〕

- ・日本科学哲学会『科学哲学』第 39 巻編集委員
- ・科学基礎論学会『科学基礎論研究』査読委員

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

- ・教養教育
「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前後期)
- ・専門教育
「哲学基礎」(前期), 「人間情報科学基礎」(後期), 「論理学概論」(前期), 「一般記号システム論」(後期), 「一般記号システム論演習」(前後期)
- ・大学院
「論理学特論」(前期), 「論理学特別演習」(後期)

〔卒論指導〕

人間情報科学コースの卒論指導 1 件。

渡辺 文生

(1) 研究成果

〔学会, 研究会などの口頭発表〕

- ・「語りの談話における『話段』とその認定基準について」言語科学会第 8 回年次国際大会, 国際基督教大学, 2006.6.11. (『言語科学会第 8 回年次国際大会ハンドブック』187-192.)
- ・『『語り』の作文に現れる主観的表現についての対照研究』2006 International Conference on Japanese Language Education, Columbia University, USA, 2006.8.6. (*Conference handbook*. 108-109.)
- ・「講義という談話の基本構造」2006 年度日本語教育学会秋季大会, 熊本県立大学, 2006.10.8. (『2006 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』239-241.)
- ・「ストーリーを語る談話・文章における日本語らしさ」日本語教育学会東北地区研究集会, 山形大学, 2006.11.18. (『2006 年度第 8 回日本語教育学会研究集会 東北地区 予稿集』49-58.)
- ・「語りの談話におけるジェスチャーの日韓対照研究 一節のくりかえしの場合」第 2 回談話分析コロキウム, 山形テルサ, 2006.12.23.
- ・“Clausal self-repetition in native and non-native narrative discourse.” ATJ 2007 Seminar,

Boston, USA, 2007.3.22.

- ・“The use of topic markers in Japanese and Korean narrative discourse.” Association for Asian Studies 59th Annual Meeting, Boston, USA, 2007.3.23.

〔出版物〕

- ・「ストーリーを語る談話・文章における『は』の使用の比較」『談話と文法の接点』科学研究費補助金基盤研究（B）（課題番号：15320048「諸外国語と日本語の対照的記述に関する方法論的研究」研究代表者：青木三郎）研究論文集 17-24.
- ・「語りの談話における『話段』とその認定基準について」『山形大学紀要（人文科学）』16, 2, 109-119.
- ・「ストーリーを語る日本語の文章における主観的表現について ―母語話者と非母語話者の作文をとおして―」『山形大学人文学部研究年報』4, 67-78.

(2) 教育，地域貢献等の活動

担当授業は，言語学概論・日本語学概論・日本語意味論演習・日英対照言語学演習・日本語学講読・日本語（記述）・国語の教材研究 B《以上学部専門科目》・日本語意味論特論・日本語意味論特演・特別研究《以上大学院科目》・教養教育科目（言語学）・教養教育科目（日本語）。

学生の指導については，言語学コース 2 名と日本語学コース 1 名の卒業論文，および大学院文化システム専攻 1 名の修士論文を担当した。

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

2006 年度は，研究代表者および研究分担者として 2004 年度から交付されているそれぞれの科学研究費プロジェクトのまとめとなる研究発表を行った。また，人文学部研究活動支援（萌芽的研究）「語りの談話に現れるジェスチャーの日韓対照研究」を受けて研究を行った。

2006 年 12 月 23 日には，山形テルサにおいて『第 2 回談話分析コロキウム』という研究発表会を主催した。静岡県立大学，東京大学，筑波大学，東北大学，ミネソタ大学から研究者を招き，談話分析に関わるテーマで研究発表およびディスカッションを行った。

鈴木 亨

(1) 研究成果

- ・“Between Conventionality and Compositionality: The Resultative Construction Deconstructed?” *English Linguistics* 23, 213-244.
- ・“Revisiting Spurious Resultatives” 『タイプシフト的観点からの日英語の構文分析』（平成 16～18 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書（研究代表者 富澤直人）），73-109.
- ・“Boundedness and Spurious Resultatives”, *Explorations in English Linguistics* 21, 43-90.
- ・*Constraining Resultatives: Boundedness on the Scale*, 学位論文（博士）東北大学大学院文学研究科

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・担当授業

英語 C，英語 R，英語学概論，英語学演習，英語学講読，英語の教材研究 B，英語語法論特論，英語語法論特別演習，卒論指導

- ・地域連携活動

NHK 文化センター山形大学人文学部提携講座「英語の歌で学ぶアイルランドの歴史」（2007 年 1 月 27 日，2 月 3 日，3 月 3 日）

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、ここ数年の課題であった結果構文の有界性を中心テーマにした博士論文を完成させることができた。教育面では、演習形式の専門授業の課題で、英語テキスト（Penguin Readers, Oxford Book Worms）の多読を課し、能動的な学力養成を試みた。

富澤 直人

(1) 研究成果

- ・ Syntactic structures of resultatives revisited, *Annual Research Report, the Faculty of Literature & Social Sciences, Yamagata University* 4, 79-99. (2007 年 2 月)
- ・ A derivational approach to the resultative constructions and its implications. 『タイプシフト的観点からの日英語の構文分析』第 1 章 (pp. 1-57) 平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書 (課題番号 16520292). (2007 年 3 月)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・ 教養教育: 英語 (R)
- ・ 学部教育: 英語学特殊講義, 人間文化基礎演習, 言語学基礎, 日英対照言語学, 現代英文法演習
- ・ 大学院教育: 英語学特論, 英語学特別演習, 特別研究

山田 浩久

(1) 研究成果

[著作]

- ・ 『都市の景観地理 日本 1』, 阿部和俊編, 「仙台市の市街地景観の変遷」, 古今書院, P19-31.

[論文]

- ・ 「地理情報システムを用いた草木塔分布図の作成」, 『環境保全』, 9, P39-46.
- ・ 「大都市圏域の地価変動現象に見られる土地評価の推移」, 『社会経済構造の転換と 21 世紀の都市』 (平成 16～18 年度科学研究費補助金 基盤研究 (A) (1) 研究代表者 藤井 正), P50-61.

[口頭発表]

- ・ 「酒田市飛島における住民の生活行動」, 2006 年 4 月, 日本地理学会離島研究グループ.
- ・ 「仙台市における市街地景観の変遷と景観計画の妥当性」, 2006 年 5 月, 東北地理学会.
- ・ 「中国北京市における基準地価と都市計画の関係」, 2006 年 9 月, 日本地理学会 (山田浩久・史鋭).

[講演]

- ・ 「コンパクトシティ政策の必要性と今後の課題」, 2007 年 2 月, 都市計画会議の特別講演。

(2) 教育, 地域連携等の活動

[卒論指導]

- ・ 「単身者用アパートの立地に関する GIS 分析——山形市小白川地区を中心にして——」
- ・ 「高齢者の生活行動パターンに関する地理学的研究——岩手県花巻市大澤集落を事例にして——」
- ・ 「フィルムコミッション事業の現状と課題」

[修論指導]

- ・ 「中国北京市における郊外宅地開発の研究」
- ・ 「小中学校の立地再編と地域変容に関する研究——山形県を事例にして——」

[地域連携等]

- ・ 山形県総合政策審議会特別委員
- ・ 山形県広域調整会議委員

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

学際的な大規模科研の成果をまとめていく過程において、領域にとらわれない広範な視野で現象を分析する必要性を改めて痛感した年度であった。教育、地域連携に関しては、草木塔分布図の作成や不動産データベースに関わる卒業論文指導に GIS を利用できるようになり、満足のいく成果を出すことができた。

本多 薫

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・市川博, 本多薫, 大橋正和: ICT の進展による VDT 作業の増加と疲労やストレスとの関係, 情報社会学会誌, 第 1 巻第 1 号, p.64-72, 2006.5
- ・本多薫, 若井正一: 地下街歩行時の心拍変動を指標とした生体負担の測定に関する実験的検討, 日本建築学会計画系論文集, 第 603 号, p.54-64, 2006.5
- ・本多薫, 若井正一: ウェーブレット変換による心拍変動解析に関する検討—R—R 間隔の急激な変化時のパワースペクトルについて—, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第 3 号, p.35-43, 2006.7
- ・本多薫: 心拍変動を指標とした地下街移行動作時の生体計測に関する研究, 博士学位論文, 日本大学, p.1-150, 2007.1
- ・森田光宏, Mark IRWIN, 本多薫, 富田かおる: 英語学習のための自作ポッドキャスト教材—自作 "Town Sketch Podcasting" の開発と評価—, 東北英語教育学会研究紀要, 第 27 号, p.47-60, 2007.3

〔国際会議〕

- ・ICHIKAWA Hiroshi, HONDA Kaoru, HIROSE Hiroo, and YAMAMOTO Yoshito: A Study on the screen designs of e-learning material, *Conference on Internet Computing (ICOPM'06) Proceedings*, p.146-152, 2006.6
- ・HONDA Kaoru: Mental strain of changing the course during transfer in closed space, *Proceedings IEA2006 Congress*, p.1-6, 2006.7

〔学会発表〕

- ・門間政亮, 本多薫: 夜間の文字入力作業の特徴に関する研究, 人間工学, 第 42 巻特別号, p.428-429, 2006.6
- ・門間政亮, 本多薫, 渡邊洋一: チャットコミュニケーションにおける昼夜間の違い その 2, 東北心理学研究, 第 56 号, p.49, 2006.9
- ・佐藤翔, 西平直史, 本多薫, 渡邊洋一: 社会シミュレーションモデルの検討—個人差がもたらす影響について—, 日本人間工学会関東支部第 36 回大会講演集, p.197-198, 2006.12
- ・門間政亮, 丸田忠雄, 本多薫: チャットコミュニケーションにおける会話分析について, 日本人間工学会関東支部第 36 回大会講演集, p.19-20, 2006.12
- ・本多薫, 西淳二, 西田幸夫, 市原茂: 地下空間移動における生体負担に関する研究—地下鉄駅での移動方法の違いについて—, 地下空間シンポジウム論文・報告集, 第 12 巻, p.117-123, 2007.1

(2) 教育、地域連携等の活動

〔授業〕

情報処理(教養), 情報科学入門, キャリアガイダンス, 人間情報科学基礎, 人間情報科学演習, 人間情報科学実習(学部), 人間情報科学特論, 人間情報科学特別演習, 心理・情報特別研究(大学院)

[セミナー]

人文学部公務員試験対策講座（講義 1 回，演習 2 回を担当した）

[卒業論文（人間情報科学コース担当として指導）]

ストループ効果に関する研究—楽器演奏との関係を中心に—

[地域貢献活動等]

- ・出張講義：山形県立南高校にて「人間工学と生体情報処理」を講義した
- ・放送大学山形学習センター客員助教授（学習相談等を担当した）
- ・東北芸術工科大学非常勤講師（「コンピュータ応用演習」を講義した）
- ・放送大学非常勤講師（「パソコンの基礎と情報処理」を講義した（集中講義））
- ・山形県産業技術短期大学校非常勤講師（「ヒューマン・インタフェースと生体情報処理」を講義した（1 回のみ））

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 18 年度は，生体情報による生体負担の評価に関する研究をまとめるとともに，人間とコンピュータとのヒューマン・インタフェースに関する研究を進めた。また，教育としては，情報科学関連の講義を担当するとともに，清塚邦彦教授との共同で卒業論文の指導を行った。

ライアン，スティーバン

(1) 研究成果

- ・ March 2007. Paper Presentation. The Disruptive Potential of Cultural Background Knowledge in Cross-Cultural Communication: An Analysis of Sample Japanese and American Business Conversations. International Guam 2007 Conference on Business, Economics and Information Technology. Guam, USA.
- ・ February 2007. Ryan, S.B. The Affect of Cultural Background Knowledge on Communication Between Japanese and Americans in a Business Context. *Bulletin of Yamagata University (Humanities)*, Vol. 16, No. 2. pp. 77-97.
- ・ December 2006. Ryan, S.B. Presentation. American Kids Raised in Japan: Bi-lingualism and the Self-Identity Issue. Japan Association of Language Teachers, Yamagata Chapter. Yamagata, Japan.
- ・ November 2006. Presentation. Living in Yamagata. 国際ソロプチミスト山形. Yamagata, Japan.

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・担当授業：英語（C），英語（R），英語コミュニケーション I，II，英会話 III
- ・2004.4-2007.4 SELHI 研究. スーパー イングリッシュ ランケージ ハイスクール。運営指導委員等. 山形市立商業等高校. 文部学科省指定.
- ・ August 2006. Intercultural Training and Communication Seminar. JET Program. Yamagata Prefecture International Affairs Office. Tendo city, Japan.

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

I will continue research in the area of Intercultural Communication with regards to how cultural background knowledge affects communication in cross-cultural contexts. I shall also be working on an EFL textbook for Japanese students in the field of nursing.

アーウィン, マーク

(1) 研究成果

〔学位論文〕

- ・2006 年 11 月 Irwin, Mark. *Mora Obstruent Allomorphy in Sino-Japanese Morphemes in Final -/ki/: A Case of Lexical Diffusion in Modern Japanese*. Sheffield University, 博士論文.

〔論文〕

- ・2007 年 3 月 森田光宏・Irwin, Mark・本多薫・富田かおる. 英語学習のための自作ポッドキャスト教材: 自作 "Town Sketch Podcasting" の開発と評価, 東北英語教育学会研究紀要 27: 47-60.
- ・2007 年 3 月 Miller, Jerry & Irwin, Mark. From Greek to English to Japanese and Back Again - A Vocabulary Building Project for Engineering Students, 東北英語教育学会研究紀要 27: 61-70.

〔書評〕

- ・2006 年 5 月 Irwin, Mark. 'Voicing in Japanese' (van de Weijer, Nanjo & Nishihara (eds), Mouton de Gruyter, 2005), *The Linguist List* 17, 1589.

〔学会発表等〕

- ・2007 年 1 月 Irwin, Mark. Labial Lenition in the History of Japanese: Anomalies in the Pathways of Sino-Japanese Lexemes, オクスフォード大学オーリエンタルインスティテュート東アジア学部セミナーシリーズ, オクスフォード.

(2) 教育・地域連携等の活動

- ・2006 年度担当したゼミ・授業: 英会話 I, 英会話 II, 英語 (C)

森田 光宏

(1) 研究成果

〔口頭発表〕

- ・村尾玲美・松野和子・森田光宏・阪上辰也・大名力・杉浦正利 (2006) 「日本人英語学習者のライティングにおける産出単位の分析」言語学会第 8 回年次国際大会 (国際基督教大学) (2006 年 6 月 10 日)
- ・阪上辰也・村尾玲美・松野和子・森田光宏 (2006) 「ライティングにおける産出速度から見た定型表現の検討—動的コーパス構築の試み—」英語コーパス学会第 27 回全国大会 (広島大学) (2006 年 4 月 22 日)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・教養教育科目: 英語 (C), 英語 (R)

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

〔研究〕

- ・日本人英語学習者の心的辞書に関する研究を行っている。共同研究として、動的学習者コーパスを用いた文産出に関する研究から心的辞書にアプローチ
- ・平成 18 年度人文学部研究活動支援を受けマーク・アーウィン, 本多薫, 富田かおるの各氏とともに、「ポッドキャストを活用した英語教育の基礎研究」に取り組んでいる。

〔教育〕

- ・英語 (C), 英語 (R) において、授業内でコミュニケーションを重視した授業を行うと共に、授業外で英語に触れる機会を増やすように仕組みづくりを行った。

グリンダ、ラインホルト

(1) 研究成果（学会会員等を除いて）

〔研究書〕

- ・「著作目録 Schriftenverzeichnis Barbara Yoshida-Krafft」掲載の本・バルバラ吉田クラフト 著『日本文学の光と影』藤原書店（2006 年 11 月）436～428 頁（付録）

〔学会における口頭発表〕

- ・「Growing Up in Germany ドイツの社会と文化」（国際日本文化研究会，平成 18 年 12 月 16 日）
- ・「Studying Japanese, English, and German」（国際日本文化研究会 JALT 山形，平成 19 年 3 月 10 日）

(2) 教育，地域連携等の活動（学内の担当授業等を除いて）

〔講演活動〕

- ・「世界を知る 1 ドイツ講座」（平成 18 年 6 月 9 日，天童市・県青年の家）（関連記事は 6 月 10 日の『読売新聞』山形版 46784 号の 35 ページに）
- ・「まさに戦後人の喜劇（よろこび）井上ひさしの昭和芝居」（山形大学公開講座人文学部「演劇論」18 年 7 月 4 日，山形大学内）
- ・「ヨーロッパの交差点に生きて」（NHK 文化センター山形教室・山形大学人文学部提携講座 18 年 7 月 15 日，8 月 19 日，9 月 16 日）

〔会議活動〕

- ・山形市外国人市民多文化共生懇話会（山形市・主催 平成 17 年度・18 年度，全 10 回）

〔通訳〕

- ・ドイツ・シーボルト協会 歓迎交流会（平成 18 年 10 月 16 日，村山市最上徳内記念館）
- ・バイオマスセミナー（19 年 2 月 9 日～10 日，ホテルメトロポリタン山形，新庄市民プラザ，金山町その他）

〔記事〕

- 「ことばの杜へ」欄『山形新聞』土曜朝刊
- ・「七つの顔」（映画）43624 号（18 年 11 月 18 日）
- ・「ファウスト」（ゲーテ・鷗外）43692 号（19 年 1 月 27 日）
- ・「墨東綺譚」（荷風）43746 号（同年 3 月 24 日）

〔テレビ出演〕

- ・ピヨ卵ワイド「山形で W 杯気分」（山形放送・平成 18 年 6 月 29 日，ドイツ料理）

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

授業の準備などで忙しくて，十九年度と違って，充実した研究活動とは言えませんが，地域連携を目指して以前の仕事経験をも有意義に使えました。

なお，十八年度に行われた研究について，次の年度に学会発表などした場合があります。

エンズレン，トッド

(2) 教育，地域連携等の活動

English Discussion (上級), English Discussion (中級), English (C), English (R).

I am also the faculty leader for the English Exchange Club.

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

My current research project focuses on the difference in pragmatic acquisition between

students who study abroad for a year and students who remain in Japan. In addition, I am also helping to develop materials for the podcasting project. I hope that students will become interested and even participate in both of these projects to help themselves improve their English and also to help further the understanding of language learning.

.....

人間文化学講座（文化学系）

奥村 淳

(1) 研究成果

- ・太宰治とグリムのメルヘン作品集「ろまん燈籠」におけるメルヘン・昔話の論理「国文学年次別論文集」近代4（平成16年）学術文献刊行会（朋文出版）（「山形大学紀要」第15巻第3号掲載の採録）（19年3月出版）
- ・NHK 人文学部連携講座「女性と文学，一女三界に家ありてー」（5回）

板垣 哲夫

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・歴史学基礎，日本史特殊講義（二），日本史演習（二），日本史購読（二），福沢諭吉再考（歴史学），江戸時代とは何か（教養セミナー）

芦立 一郎

(1) 研究成果

「花問集のことは」『山形大学紀要（人文科学）』第16巻第2号

(2) 教育，地域連携等の活動

山形 NHK 文化講座講師

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

藤澤 秀光

(2) 教育，地域連携等の活動

〔担当授業名〕

- ・学部：英語，専門基礎英語，アメリカ研究演習，アメリカの社会・文化
- ・大学院：英米現代文化論特論，英米現代文化特別演習

〔ボランティア〕

- ・国際ロータリー第2800地区財団奨学生選考委員
- ・国際ロータリー第2800地区ロータリー学友会代表幹事

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

ユダヤ系，日系といったアメリカの少数民族に関する小節，演劇，雑誌，新聞，公告，CM，映画，TV番組，音楽，スポーツといった，文字化，音声化，映像化された文化的生成物を対象にした研究を行っています。

教育か都度としては，ロータリー財団の奨学生として，学部より1名海外留学が実現できるまで，つまり，奨学金申請から，留学先の大学の決定まで，指導を行いました。

菊地 仁

(1) 研究成果

- ・論文

「歌人伝説と和歌—和泉式部・小式部そして紫式部の場合」（『和歌とウタの出会い（和歌をひらく第 4 巻）』, pp.59-77, 2006 年 4 月）

・書評

「小峯和明著『院政期文学論』（『国文学研究』, 第 150 集, pp.148-150, 2006 年 10 月）

・座談会

「《座談会》 詩歌のことば（第一回）（第二回）（第三回）」（『文学（隔月刊）』, 第 7 巻第 4 号, pp.155-173, 2006 年 7 月, 第 7 巻第 6 号, pp.161-177, 2006 年 11 月, 第 8 巻第 2 号, pp.223-243, 2007 年 3 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

・平成 18 年度における授業

〈前期〉

教養セミナー（教養教育）, アジア文化基礎, 民俗文化概論, 日本古代中世文学演習, 日本古代中世文化特論（大学院）

〈後期〉

文化論（教養教育）, 日本古代中世文学特殊講義・日本古代中世文学講読・民俗文化演習, 日本古代中世文化特別演習（大学院）

・地域連携活動

〈山形大学人文学部提携講座〉「百人一首」の世界（NHK 庄内文化センター・2006 年 4 月～9 月）

〈出張講義（総合大学体験学習『出前講座』〉）「絵巻の謎をどう読むか—『春日権現験記絵』の一説話から—」（山形県立米沢東高等学校・2006 年 10 月 27 日）

元木 幸一

(1) 研究成果

〔著書〕

『西洋絵画の巨匠 12 ファン・エイク』小学館 2007 年 1 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔授業〕

西洋美術への招待（芸術）, 聖母・魔女・お姫様（芸術）, 芸術文化基礎, 芸術文化史, 美学・芸術学演習, 美術史演習, 芸術文化実習, 博物館実習, 表象文化（美学・芸術学）特論, 表象文化（美学・芸術学）特別演習 卒論指導 「Eucharistia—初期ネーデルラント絵画における聖餐の図像表現」 「聖アンナ三代図の図像学」

〔地域連携〕

放送大学客員教員, 山形県立博物館協議会会長

〔講演会等〕

・「西洋絵画への招待 Part2」NHK 文化センター山形教室

・「オランダ, ベルギーの都市の美術」NHK 文化センター山形教室

・「ピーチの憂愁・・・ルノワール《桃》と静物画について」山形大学附属博物館公開講座『山形美術館の傑作たち—6 美術史家の競演』

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

初めての単著が出たという点で研究面では嬉しい年だった。教育面では二つの管理職を兼ねていたため、講義に十分手が回らず、初めてのテーマでやった教養講義の授業アンケートで初めて 3 点台となり、学生はごまかせないなあと自戒。ただし、卒論指導では、担当した二人がとても良く勉強し

たので、指導が楽しかった。二人とも発想も良く、また論理的に詰めていく態度もあり、とても良い出来で満足。そのうち一人は優秀な卒論に授与されるティードマンふすま賞を受賞した。すべての面で完璧とはなかなかいけないということを考えれば、研究、教育両面で充実した年だったと思う。

浅野 明

(1) 研究成果

・論文：「17 世紀モスクワ国家の士族と勤務—И.Л. アンドレーエフの研究から—」, 科学 研究費補助金研究成果報告書『近世ロシアにおける法文典の史料学的ならびに文献学的 研究』140—158 頁。

(2) 教育, 地域連携等の活動

・担当授業：西洋中世の社会 (歴史学), 地域歴史論 (二) (農村社会論), ロシア・東欧史特殊講義, ヨーロッパ史演習 (一), ヨーロッパ史講読 (一)

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

論文は、6 年前から継続しておこなわれている共同研究の成果の一部である。この共同研究はその後も継続しておこなわれている。担当授業については、前年と同様の内容であった。

松尾 剛次

(1) 研究成果

〔著書〕

・松尾剛次『四国八十八札所遍路の思想史的研究』坂部印刷, 2006
・松尾剛次『日本社会における仏と神』吉川弘文館 (共著), 2006

〔編著〕

・松尾剛次『思想の身体 戒の巻』春秋社, 2006

〔論文〕

・松尾剛次「博多大乗寺と中世都市博多」『鎌倉遺文研究』17 号, 2006

〔講演・講義〕

・米国ニューヨーク州立大学オルバニー校にて「A History of Japanese Buddhism」とのテーマにて講義を行う (2005 年度秋学期・2006 年春学期) 2005/9/1~2006/5/31
・コロンビア大学日本研究センターにて「The formation of medieval Japanese towns and the rise of Kamakura New Buddhism」という題で講演を行う 2006/5/11
・日本宗教学会第 65 回学術大会 (2006.9.17) にて、「戒と死」というテーマでパネル報告
・大谷大学真宗総合研究所開設 25 周年記念シンポジウムにて、「中世都市と律宗の関係—博多と博多大乗寺を中心に」というテーマで講演, (2006 年 10 月 7 日)

〔書評など〕

・書評「小島毅」『近代日本の陽明学』『岩手日報』2006 年 9 月 9 日
・書評「小島毅」『近代日本の陽明学』『高知新聞』2006 年 9 月 10 日
・書評「小島毅」『近代日本の陽明学』『福井新聞』2006 年 9 月 10 日
・書評「小島毅」『近代日本の陽明学』『北國新聞』2006 年 9 月 10 日
・書評「小島毅」『近代日本の陽明学』『山陽新聞』2006 年 9 月 10 日
・書評「小島毅」『近代日本の陽明学』『山形新聞』2006 年 9 月 17 日
・「日本におけるエンバーミングの夜明け」『在家佛教』第 55 巻—654 号 (社) 在家佛教協会 2006 年 11 月 1 日

(2) 教育，地域連携等の活動

〔教育〕

教養教育では「仏教入門」（工学部開講），専門教育では「文化人類学宗教史基礎」・「比較宗教生態史」・「宗教社会史特殊講義」・「宗教史講読」・「宗教史実習」，大学院では「日本中世宗教文化史特論」Ⅰ・Ⅱ「日本中世宗教文化史演習」Ⅰ・Ⅱを担当。

〔地域連携〕

財団法人山形県生涯学習財団「山形学」委員として，公開講座などを企画・主催した。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，著書 3，論文 1 といった具合に実り多い年であった。教育面では，ニューヨーク州立大学客員教授を務めるなど，大いに努力したといえる。

阿部 宏慈

(1) 研究成果

・論文

阿部宏慈「ブルーストとロシア：ロシア・バレエのフランスにおける受容とロシア・イメージの問題」山形大学大学院社会文化システム研究科紀要，第 3 号，pp.1-22，平成 18 年 7 月

・口頭発表

阿部宏慈「〈リアル〉と〈イマジネール〉の間：ディディ＝ユベルマンにおける〈le visuel〉概念をめぐって」日本フランス語フランス文学会東北支部大会，平成 18 年 12 月 1 日，於：岩手県立大学

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・山形国際ドキュメンタリー映画祭の独立法人化の準備のための実行委員会に山形大学から派遣され，準備会の議論に参加した。
- ・安達峰一郎博士のフランス語書簡の訳出に協力した。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については，前半期は，17 年度末にフランスでおこなった文献資料調査の結果を上記論文としてまとめた。後期はドキュメンタリー映画における〈リアル〉の問題をジョルジュ・ディディ＝ユベルマンによる〈le visuel〉概念の検討を通じて継続し，その中間的な成果を特別発表として上記の口頭発表に結びつけた。

教育においては，特に欧米文化論コースおよび表象文化論コースで卒業論文を指導した。内容はフランス文化論からイギリスの BBC 制作のテレビ番組の研究，TRPG 論など多岐にわたった。

新宮 学

(1) 研究成果

〔学術論文〕

- ・「北京遷都研究の現状と課題」『都市と環境の歴史学』2 集 p146～168 2006 年
- ・「北京城と葬地—明王朝の場合」『都市と環境の歴史学』3 集 p82～111 2006 年
- ・「遷都と王権—明王朝の場合」『中国の王権と都市—比較史の観点から—』大阪市立大学大学院文学研究科 COE/ 重点研究共催シンポジウム報告書 p83-106 2007 年 3 月学会発表
- ・「明清北京城市研究」隋唐長安歴史地理問題学術討論会（陝西師範大学西北歴史環境と経済社会発展研究センター主催）2007 年 3 月 17 日 於 西安

〔海外調査〕

- ・黄土高原の都市と環境調査 2006 年 9 月 12～26 日（中国，北京市・張家口市・大同市・フフホ

ト市)

- ・中国西安都城調査 2007年3月10～22日(中国, 西安市)

[雑文]

- ・「本館所蔵の160年前の中国カレンダー—『大清道光二十七年歲次丁未時憲書』『やまびこ』57号 p1～2 2006年10月

(2) 教育, 地域貢献等の活動

[当該年度における授業(担当授業名)]

・学部

地域歴史論(三)(都市社会論), アジア史特殊講義(二)(近世・近代), アジア史演習(二), アジア史講読(二), 北京の歴史(歴史学), マルコ・ポーロの『東方見聞録』を読む(教養セミナー), 卒業論文指導, 外国史概説(地域教育文化学部兼任)

・大学院

東アジア近世史特論 I, 東アジア近世史特別演習

[地域貢献]

- ・大学評価・学位授与機構による「大学機関別認証評価のための自己評価書(案)」の基準2, 教育研究組織(実施体制)等の執筆
- ・山形大学研究室訪問プロジェクト(新庄北高校)の生徒1名の受入
- ・新庄北高校での研究室訪問成果発表会と特別講義「『東洋』とアジア」11月15日
- ・上山明新館高校で大学説明会(山形大学文系学部の説明担当)10月27日
- ・「北京の歴史講座」講師(3回連続)山形県日中友好協会女性委員会主催(11月～12月)

(3) 当該年度の研究, 教育活動に関するコメント

基盤研究(S)「歴史学的視角から分析する東アジアの都市問題と環境問題」(代表 妹尾達彦教授)および基盤研究(A)「東アジア諸国における都城および都城制に関する比較史的総合研究」(代表 橋本義則教授)の分担研究者として, 2回の海外調査と研究会に参加した。また前年度に引き続き, 学部研究支援プロジェクト「山形大学附属図書館所蔵の未整理漢籍の調査研究」を行った。

教育活動では, 東洋史・日本史・西洋史の教員有志とともに, コース所属の学生を対象にした合宿(於, 松島)を6月に行い, 東北歴史博物館で「中国, 美の十字路展」や多賀城址などを見学, 合宿先では東洋史の専門を深める勉強会を実施した。

西上 勝

(1) 研究成果

[論文]

平成19年2月「『閑人』と自然観賞」山形大学紀要(人文科学)第16巻第2号33～51頁

[学会での研究発表]

- ・平成18年7月「アウトサイダーの自然観賞」第20回中国詩学会(五皓)
- ・平成19年2月「所有をめぐる文学的位相」第21回中国詩学会(五皓)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・専門教育: 中国語学特殊講義, 比較文化演習など
- ・教養教育: 中国語 I 及び中国語 II
- ・トワイライト開放講座「アジア文化論基礎」の一部を担当した。

佐藤 清人

(2) 教育, 地域連携等の活動

山形南高等学校で出張講義 (平成 18 年 9 月)

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

個人的な研究としては, 日系アメリカ人作家デヴィッド・マスモトの研究を行っているところである。また, 科研費の共同研究としては, エドモンド・ウィルソンとロシアの関係について調査を行っている。

山崎 彰

(1) 研究成果

[学会報告等での口頭発表]

「ブランデンブルク近世史の諸論点をめぐって」ヨーロッパ近世史研究会例会報告 (2007 年 3 月 31 日)

[論文]

- ・科学研究費 (代表者: 山崎彰) 報告書「近代初期ブランデンブルク貴族の親族構造と領地支配に関する実証的研究」2007 年 3 月
- ・科学研究費 (代表者: 佐藤勝則) 報告書「比較連邦制の研究」(「ハルデンベルク改革政治とマルヴィッツ」107-119 頁を執筆) 2007 年 3 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

・教養教育

「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」「ヨーロッパ史の中のドイツ」後者は E ラーニングとして行った。他に「自分の未来を描いてみるーキャリア形成論」を企画し, 実施した。この講義に関しては, 高等教育研究企画センター紀要『山形大学高等教育研究年報』創刊号 (2007 年 3 月) で事例報告として実施状況を紹介した。

・専門教育

「歴史学基礎」「西洋史概論 (二)」「西洋史講義 (二)」「西洋史演習 (二)」「西洋史講読 (二)」

・大学院教育

「ドイツ史特論」「ドイツ史特別演習」

・卒業論文指導としては, フランス近世史とイギリス現代史の論文指導を行った。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

- ・科研費 (基盤研究 C) 「19 世紀前半ブランデンブルク農村社会の紛争と社会的調整に関する実証的研究」(代表・山崎彰) の 1 年目として, 9 月に 4 週間をかけてブランデンブルク州立中央文書館で資料調査を行った。
- ・4 人の共訳者によって翻訳作業を進めている 18 世紀思想家 J. メーザー著『郷土愛の夢』の解題執筆を準備し, 今年度中に訳稿とともに, 全ての原稿を作成し終える。

福山 康男

(1) 研究成果

- ・「曹植『白馬篇』考一「遊侠児」の誕生一」(平成 19.2, 山形大学人文学部研究年報第 4 号, p53-66)
- ・「曹植の『少年』」(平成 19.2, 山形大学紀要 (人文科学) 第 16 巻第 2 号, p17-32)

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・山形大学人文学部公開講座「演劇の世界」担当（平成 18 年 6 月）
- ・NHK 文化センター山形支社において市民講座「三国志に学ぶ新人間学」担当（平成 19 年 1 月～3 月）

中村 三春

(1) 研究成果

〔著書〕

- ・『横光利一の文学世界』[石田仁志・渋谷香織との共編著] 翰林書房 / 2006 年 4 月（論文「横光利一の文化創造論」「『天使』—変異する純粹小説—」を含む）
- ・『修辭的モダニズム テキスト様式論の試み』[単著] ひつじ書房 / 2006 年 5 月

〔論文〕

- ・『セバスチャン』清水良典編『現代女性作家読本 5 松浦理英子』（鼎書房） / 2006 年 6 月
- ・「葉」評釈（一）—引用とフラグメント—『太宰治研究』14（和泉書院） / 2006 年 6 月
- ・「オルグ」の恋愛と身体『「文学」としての小林多喜二』（至文堂） / 2006 年 9 月
- ・反啓蒙の弁証法—表象の可能性について—『國語と國文學』第 996 号（東京大学国語国文学会） / 2006 年 11 月
- ・天井棧敷の系譜・または寺山修司の仕事 今村忠純編『現代演劇』（至文堂） / 2006 年 12 月
- ・藤沢周平の宗教性『国文学解釈と鑑賞』第 72 巻第 2 号（至文堂） / 2007 年 2 月

〔書評〕

- ・太宰をもって太宰を制する [田中和生『新約太宰治』書評]『週刊読書人』 / 2006 年 9 月 15 日
- ・流れと切片の全体として解明 [清水良典『村上春樹はくせになる』書評]『週刊読書人』 / 2006 年 11 月 17 日
- ・柴田勝二著『〈作者〉をめぐる冒険』『比較文学』第 48 巻（日本比較文学会） / 2006 年 3 月
- ・違和感から立ち上る幻想 [多和田葉子『アメリカ』書評]『週刊読書人』 / 2007 年 3 月 9 日

〔高等教育関係口頭発表〕

- ・山形大学教養教育 e ラーニング化の取り組み—大学間連携と FD—第 28 回大学教育学会 / 2006 年 6 月 於・東海大学湘南校舎
- ・山形大学教養教育 e ラーニング化計画 第 56 回東北・北海道地区大学一般教育研究会 / 2006 年 9 月 於・北海学園大学
- ・協力と結集—ゆうキャンパス・やまがたの組織運営— 第 3 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム / 2006 年 12 月 於・中央大学

(2) 教育・地域連携等の活動

〔授業〕

・前期

「詩は滑稽だ」—現代詩を読む（教養教育）

日本近代文学の基礎知識（人文学部・アジア文化基礎）

日本文学研究法 / 明治大正文学史（人文学部・日本文学概論）

日本近代文学とジェンダー（人文学部・日本近世近代文学演習）

フィクションの理論（大学院社会文化システム研究科・表象文化論（現代批評）特論）

宮澤賢治の文芸世界（東北芸術工科大学・一般教育・文芸研究入門）

・後期

メタフィクション研究（教養教育）

文化の理論と映画記号学（人文学部・映像論）

現代文学の地政学（人文学部・比較文学概論）

横光利一と昭和戦前期の文学（人文学部・日本近世近代文学特殊講義）

日本近代詩現代詩精読—朔太郎・中也・俊太郎—（人文学部・日本近世近代文学講読）

カルチュラル・リーディングス（大学院社会文化システム研究科・表象文化論（現代批評）特別演習）

・通年

映画史—近未来 SF 映画と 50 年代日本映画—（宮城学院女子大学・表象文化論）

アジア文化論特別研究（大学院社会文化システム研究科）

〔地域連携／大学間連携〕

・役職

高等教育研究企画センター学外連携推進部門長

高等教育研究企画センター e ラーニング推進室長

大学コンソーシアムやまがた総務運営委員会委員長

大学コンソーシアムやまがた教育連携部会副部会長

山形県大学ガイダンスセミナー実行委員会委員

地域ネットワーク FD “樹水” 協議会委員

・実績

4 月 Campusmate/CourseNavig を用いた教養教育 e ラーニング授業「詩は滑稽だ」配信開始

6 月 大学教育学会（東海大学）にて発表／山形県大学ガイダンスセミナー（大学コンソーシアムやまがた・大学入試センター共催）開催

7 月 東北地区大学高等教育センター交流会議（岩手大学）にて発表

8 月 FD 教員セミナー（合宿）でチューター／教養教育ワークショップにて e ラーニングのラウンドテーブルを主宰／谷地高校にて出張講義

9 月 北海道・東北地区一般教育研究会（北海学園大学）にて発表／公開講座「山形の魅力再発見 4」で藤沢周平・ますむらひろしについて講演

10 月 Blackboard を用いた教養教育 LMS 支援授業「メタフィクション研究」開講／中高大連携公開講座「ひらめき☆ときめきサイエンス」で「映画に見る未来社会のエネルギー」について講演／山形県大学ガイダンスセミナー高大連携シンポジウム開催

11 月 YU-SUNY 特別プロジェクト・“樹水” 海外先進大学調査（アメリカ、NY 州立大学コプルススキル校・カントン校・SUNY 本部）／山形大学に e ラーニングコンテンツ作成・Web 配信会議システム Macromedia Breeze（現 Adobe Presenter, Adobe Acrobat Connect）導入

12 月 “樹水” 国内 FD 先進大学調査（NICE キャンパス長崎・熊本大学 SOSEKI システム）／第 3 回大学コンソーシアム研究交流フォーラム（中央大学）にて「大学コンソーシアムやまがたの組織運営」について発表

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

たくさん仕事をしました。普通の 3 倍以上は働いたと思います。

大河内 昌

(1) 研究成果

〔論文〕

・「リチャードソンと道徳哲学」『山形県大学大学院社会文化システム紀要』第 3 号 pp23—33 2006 年 7 月.

・「美学イデオロギー」学位論文（博士）東北大学 2007 年 2 月 15 日.

(2) 教育、地域貢献当の活動

〔担当授業〕

英語（教養教育）、英文学概論、英文学演習、欧米文化演習、文化環境学（二）（学部）、
英米近世文化論特論（大学院）担当

〔卒業論文テーマ〕

- ・「アリスとマザーグース」
- ・『『ナルニア国物語』研究—喜びと憧れの視点から』
- ・『『ハリー・ポッター研究—境界と異世界』』

(3) 当該年度の研究・教育活動に関するコメント

〔研究〕イギリスにおける啓蒙思想からロマン主義への移り変わりの問題を、18 世紀の美学、道德哲学とロマン主義の美学の関係を手がかりに、考察してきた。

〔教育〕英語教育において、学生が文法知識と英語運用を有機的につなげられることを目標に、できるだけ多くの作業を学生自身にさせるよう努力した。

阿部 成樹

(1) 研究成果

- ・「響きあうかたち ——アンリ・フォションと同時代の知的潮流』『美術史』美術史学会編、第 162 冊（第 56 巻第 2 号）、2007 年 3 月、397—410 頁
- ・「横断と廻行 ——18 世紀フランスの画家たちとイタリア」小佐野重 利編著『旅を糧とする芸術家』、三元社、2006 年 12 月、213—263 頁

(2) 教育、地域連携等の活動

- ・主たる担当授業科目：美学芸術学特殊講義、芸術文化演習、芸術文化実習、表象文化基礎、フランス絵画史 I、ヌードの歴史
- ・卒業論文指導：5 名（芸術文化論 3、表象文化論 2）
- ・社会貢献：「クールベの《ジョーの肖像》について」山形大学附属博物館・東北芸術工科大学・山形美術館公開講座、於山形美術館、2006 年 11 月 4 日
- ・その他：美学会編『美學』228 号査読委員

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

発表した論文 2 本は、いずれも数年かけて準備したものであり、自らの今後の研究の礎石として発展させていきたい。

教育（授業）については、主題・方法とも良く言えば熟成されてきた面があるが、一方で変化のつけ方について模索している。

相澤 直樹

(1) 研究成果

〔学会などの口頭発表〕

「ツルゲーネフとクロサワのあいだ —— 芸術座の『その前夜』公演（大正四年）をめぐって」日本ロシア文学会東北支部研究会（於 岩手県立大学）、平成 18 年 7 月

〔著書・論文など〕

- ・「スキアヴォーニに死す —— ツルゲーネフの『その前夜』と「魔法の街」ヴェネツィアについて ——」、柳富子（編）『ロシア文化の森へ —— 比較文化の総合研究（第二集）』（ナダ出版センター、平成 18 年 10 月）176-192 頁
- ・「失われた明日のドラマー 島村抱月の芸術座による『その前夜』劇上演（1915）の研究 ——」、『山

形大学人文学部研究年報』第 4 号, 平成 19 年 2 月。33-52 頁

(2) 教育, 地域連携等の活動

前期: ロシア語 I, ロシアの社会・文化, ロシア語学文学講読

後期: ロシア語 II, ロシアの社会・文化, ロシア文化演習

中村 隆

(1) 研究成果

〔論文〕

中村 隆, *Dickens in the Late-Victorian Context: Socio-Cultural, Politico-Economical, and Literary History in Bleak House, Great Expectations and "Sikes and Nancy"* (学位論文 (博士) 東北大学) (平成 19 年 3 月 27 日)

(2) 教育, 地域連携等の活動

・学部専門教育科目: 基礎演習, 上級時事英語, 英米文学講読, 欧米文化基礎, 宗教文化史講読, 人間文化基礎演習

・教養教育科目: 英語 (C), 英語 (R)

・地域連携活動: 県立寒河江高等学校において「イギリス文化への招待」と題して, 出張講義をした。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

〔研究〕

チャールズ・ディケンズの小説を, 当時の文化・政治・社会の枠組みの中で読み込む文化史的研究を行うとともに, 博士論文の執筆を進めた。

科研費基盤研究では, ヴィクトリア朝の大衆文学を, 探偵小説の系譜の中で読む文学史的研究を行い, センセーション・ノヴェルの再評価のための研究を推進した。

〔教育〕

教養教育の英語の読解を中心とするクラスでは *The Japan Times* などの新聞の時事英語を用いて, 読解力, 速読力の養成を図った。コミュニケーション重視のクラスでは, NHK のラジオ講座を用いて, リスニング, スピーキング力の養成を目指した。専門教育の英米文学講読では, 英語で書かれた小説・童話の物語分析を通して, 物語の基本構造の解明をした。また, 欧米文化基礎では, 18 世紀の英国の版画家ホガースの版画を取り上げ, 画像学の基礎を学ぶとともに, 図版から見る 18 世紀の英国の庶民史を読み込むための基礎を講義した。

坂井 正人

(1) 研究成果

〔学会・研究会での口頭発表〕

・「高精度人工衛星画像・現地調査にもとづく地上絵研究とその意義」, 2006 年 7 月 15 日, 公開シンポジウム「ナスカの地上絵: 謎の解明と保護計画に向けて」(於: 山形大学小白川キャンパス)

〔著書・論文・エッセイなど〕

・Estudio Preliminar de las Lineas y Geoglifos de Nasca: una investigacion interdisciplinaria (Masato Sakai & Isao Akojima eds.). Universidad de Yamagata, pp.1-88.

・『世界遺産ナスカの地上絵に関する学際的研究: 制作目的の解明と保護計画の策定』(坂井正人編著), 山形大学 1 学部・部門 1 プロジェクト平成 16・17 年度報告書, pp.1-291。

・Los Imagenes de Satelite, las Lineas y Geoglifos de las Pampas de Nasca. (Masato Sakai,

Isao Akojima, Yoichi Watanabe y Tadasuke Monma). Presentado al Instituto Nacional de Cultura del Peru.

- ・「ナスカの地上絵と人工衛星：基礎データと解釈をめぐって」(坂井正人)『Chaski』No.34, pp.6-11。
- ・「人工衛星がとらえた「新発見」のナスカ地上絵」(坂井正人・阿子島功・渡邊洋一・門間政亮), 『ニュートン』26-7, p.121。
- ・「ナスカの地上絵の謎と解明」(坂井正人)『兵庫教育』58 卷 12 号, pp.50-53。

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

比較地域研究論, 比較地域生態論, 地域研究論演習, 地域生態論演習, 文化人類学実習, 地域生態分析基礎, 人間文化基礎演習, 文化人類学入門, 南米の考古学。

〔卒業論文〕

「アイヌの口頭伝承」「学校の空間と怪談」「語られるミイラ伝」「現代日本女性と占い」「現代日本の恋愛テクノロジー」「ドリー夢小説：神話との比較を通して」「日本女性の美」「学校における保健室の位置づけ」。

〔地域連携〕

「ナスカ地上絵とアンデス考古学」2007 年 2 月 17～18 日, 放送大学(於: 放送大学山形学習センター)。

〔講演〕

「ナスカの地上絵と古代アンデス文明の展開」(山形経済同友会主催, 2006 年 6 月 13 日), 「ナスカの地上絵とアンデス文明：人工衛星画像と現地調査をめぐって」第 69 回山形県工業技術センター研究成果発表会, 特別講演会(2006 年 7 月 20 日), 「ナスカの地上絵と山形大学の研究プロジェクト」(米沢ロータリークラブ, 2007 年 3 月 1 日)。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

「世界遺産ナスカ地上絵に関する学際的研究」(山形大学 1 学部・部門 1 プロジェクト)の成果として, 100 点以上の地上絵を新たに発見し, 国内外の新聞・雑誌などで報道された。この発見をペルー文化庁に報告するとともに, 日本語とスペイン語で研究成果をまとめ, 「公開シンポジウム」(平成 18 年 7 月 15 日開催)で報告した。講義と演習では, 世界の諸民族に関する事例を検討することで, 文化人類学の基本的な考え方, 民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。また山形市山寺地区で, 文化人類学実習(第 9 次)を実施した。

中村 唯史

(1) 研究成果

〔学会, 研究会などの口頭発表〕

- ・「ビートフ『アルメニアの授業』考：マンデリシターム, バフチンとの関連で」, 科研費基盤 B「スラブ世界における文化の越境と交錯」同基盤 A「スラブ・ユーラシアにおける東西文化の対話と対抗のパラダイム」合同研究発表会(於同志社大学, 平成 18 年 9 月)
- ・「ドミナントを考える」, 日本ロシア文学会 2006 年度研究発表会パネル・ディスカッション「その後のフォルマリストたち：ロシアフォルマリズム再考」(於京都大学, 平成 18 年 10 月)
- ・「Literature and border: Caucasus in Russian literature (in Russian)」, 北海道大学スラブ研究センター 2006 年度冬期国際シンポジウム「Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context」(於北海道大学, 平成 18 年 12 月)

〔著書, 論文, エッセーなど〕

- ・『コーカサスを知るための 60 章』（執筆項目，明石書店，平成 18 年 4 月），235-239，315-319 頁
- ・「コーカサスの虜たち：ロシア文学に表れたコーカサスのイメージ」（エッセイ），『しゃりばり』（北海道総合研究調査会），295 号（平成 18 年 8 月），42-45 頁
- ・ヴィクトル・ペレーヴィン『恐怖の兜』（翻訳・解説，角川書店，平成 18 年 11 月）
- ・「原初への遡行，他者との出会い：20 世紀ロシア文学のカフカース表象を考える」，『カフカース：二つの文明が交差する境界』（論文，彩流社，平成 18 年 11 月）311-342 頁
- ・「〈ことばの杜〉へ」（コラム，隔月 1 回担当，山形新聞，平成 18 年 10 月～）

(2) 教育，地域連携等の活動

〔平成 18 年度担当授業〕

ロシア語 I，ロシア語 II（以上教養教育），比較文化・表象文化基礎，表象文化概論，ヨーロッパ文化概論，ロシア文化論，ロシア文化演習，ロシア語学演習，ロシア語学文学講読（以上専門教育），ロシア東欧文学特講義，ロシア東欧文学特演，研究指導 II（以上大学院）

〔指導論文題目〕

「マンガ供犠論」「ドラマに表象される韓国人の自己イメージ」（以上卒論），「物語余白論：トリュフォー映画，谷崎文学における逃走と回帰」（修論）

〔地域連携活動等〕

- ・北海道大学スラブ研究センター公開講座「多様性と可能性のコーカサス：民族紛争を超えて」で講義を担当（平成 18 年 5 月）
- ・山形大学人文学部公開講座「演劇論：学問の横丁を抜けるとそこは舞台だった」で講義を担当（平成 18 年 6 月）

伊藤 豊

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・「性教育——修正 28 条をめぐるシティズンシップとホモセクシュアリティの問題」，シティズンシップ研究会編『シティズンシップの教育学』（晃洋書房，2006 年 4 月）

〔学会発表〕

- ・“The British Connection: Ernest F. Fenollosa and the Origins of His Art Theory,” 2nd Convention of the International Association for Japan Studies（早稲田大学国際教養学部，2006 年 7 月 8 日）
- ・「ホモセクシュアリティ，文化，シティズンシップ：起点としてのウォルフエンデン報告書」，日本国際文化学会第 5 回全国大会，共通論題セッション 2：「グローバル・シティズンシップと文化の諸問題」（東北大学川内北キャンパス，2006 年 7 月 15 日）

(2) 教育，地域連携等の活動

2006 年度は以下の授業を担当した。

- ・教養教育科目：英語 C（前・後期）ならびに英語 R（前・後期）
- ・専門科目：比較文化概論（前期），文化交流史講義（後期），比較文化演習（前期），文化交流史演習（後期）

三上 喜孝

(1) 研究成果

〔学会，研究会などの口頭発表〕

- ・「古代日本の隣保組織について」コミュニティ・自治・歴史研究会第 6 回研究会，2006 年 7 月 22

日

- ・「東北の墨書土器」明治大学古代学研究所公開研究会，2006年7月29日
 - ・「秋田城出土文字資料の再検討」第4回東北文字資料研究会，2006年11月25日
 - ・「日本古代木簡の系譜」韓国木簡学会創立記念国際シンポジウム「韓国古代木簡と古代東アジア世界の文化交流」於ソウル市立大学，2007年1月。
- [著書，論文，エッセーなど（出版社〔発行母体〕，発表誌，巻号数，ページ）]
- ・「日韓木簡学の現状とその整理状況」『唐代史研究』第9号，2006年7月，38～55頁。
 - ・「東北・北陸地域の古代稲作」『日本海地域歴史大系』清文堂，2006年9月，83～110頁。
 - ・「古代史からみた寒河江荘の成立」『西村山地域史研究』24号，2006年10月，18～36頁。『『鴨御神』小考 ―古代の農耕祭祀に関わる一資料―』国土館大学考古学会編『古代の信仰と社会』六一書房，2006年10月，249～257頁。
 - ・「習書木簡からみた文字文化受容の問題」『歴史評論』680号，2006年11月，53～63頁。
 - ・「古代日本の隣保組織について」『ヘスティアとクリオ』4号，2006年12月，5～22頁。
 - ・「稲・銭と富の観念」『朱』50号，2007年3月，195～202頁
 - ・「北宋天聖雜令に関する覚書 ―日本令との比較の観点から―」『山形大学歴史・地理・人類学論集』8号，2007年3月，90～117頁。
 - ・「光仁・桓武朝の国土意識」『国立歴史民俗博物館研究報告』134号，2007年3月，201～211頁。
 - ・「韓国出土木簡と日本古代木簡 ―比較研究の可能性をめぐって―」『韓国出土木簡の世界』雄山閣，2007年3月，286～307頁。
 - ・「慶州・雁鴨池出土の薬物名木簡について」『韓国出土木簡の世界』雄山閣，2007年3月，308～318頁。
 - ・「古代城柵の祭祀・呪術 ―秋田城跡出土の墨書資料を素材として」平成16～18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書『呪術・呪法の系譜と実践に関する総合的調査研究』（研究代表者・小池淳一，課題番号16320121），2007年3月，21～34頁。
 - ・「山形市上敷免遺跡出土の墨書土器」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第159集 上敷免遺跡発掘調査報告書』財団法人山形県埋蔵文化財センター，2007年3月，1～3頁。
 - ・『歴史考古学事典』吉川弘文館，2007年3月。「荒田目条里遺跡」「石城国」「印章」「宇智川磨崖碑」「開基勝宝」「貨泉」「木崎愛吉」「急々如律令」「郡印」「軍団印」「国印」「五銖銭」「鑄銭司」「浄水寺」「神功開宝」「倉印」「大日本金石史」「卑弥呼」「富本銭」「本朝十二銭」「万年通宝」「邪馬台国」「厭勝銭」「和同開珎」の項目を執筆。

(2) 教育，地域連携等の活動

[2006年度における授業（担当授業名）]

- ・一般教育科目「論争する歴史学」「貨幣からみた日本の歴史」（各2単位）
- ・専門科目「地域歴史論（一）」「日本史特殊講義（一）」「日本史演習（一）」「日本史講読（一）」「文化財調査実習」（各2単位）
- ・大学院「日本古代史特論Ⅰ」「日本古代史特別演習」（各2単位）

[修士論文・卒業論文の紹介]

・修士論文

「長屋王家の家産の考察 ―蘭を中心として―」「古代における皇太后・太皇太后の特質 ―中国との比較の観点から―」

・卒業論文

「頒曆制度の途絶と貴族社会」「戦国期における茶湯の政治的意義―織田信長を中心に―」「平安時代の斎王制について」「中世の女性の労働について」「安土城の成立と政治的意義」「書院造の成立」「『古事記』における出雲神話の位置づけ」

〔地域連携活動（審議会、講演会、ボランティア等）の紹介〕

- ・長井市「桜シンポジウム」講演題「桜と花見の古代史」2006年4月、於長井市市民文化会館
- ・山形市上敷免遺跡出土墨書土器調査指導（山形県埋蔵文化財センター、2006年7月）
- ・2006年度金山町歴史学講座「栄華香る有屋地域」講演題「有屋地域の古代史」2006年9月11日於金山町有屋地区公民館

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究分野では、韓国出土木簡についての研究成果を、韓国での国際シンポジウムにおいて発表した。また、科学研究費補助金による若手研究（B）のほか、共同研究3件、学部内研究プロジェクト1件に参加し、多方面に涉り研究活動を行った。教育面では、講読や演習を通じて文献史料の読解に重点を置いたほか、実習（奈良・京都方面）や合宿（金山町）等を通じて生の歴史資料を見る機会を提供した。卒業論文の指導にも力を入れた。

渡辺 将尚

(1) 研究成果

〔論文〕

共存する批判と是認——プレヒト『転機の手紙』におけるソ連共産主義（山形大学紀要（人文科学），第16巻，第2号，121～134ページ，平成19年2月）

(2) 教育、地域連携等の活動

放送大学山形学習センター客員准教授として、種々の学習相談に応じた。また、隔週でドイツ語講座を担当し、各年齢層から多くの受講者を得た。

中村 篤志

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・「乾隆48年諭旨とモンゴルの“社会変容”」*Northeast Asian Study Series*, vol.8, pp.31～39, 2006年（原文モンゴル語）
- ・「アシグ章京の訴訟とその背景」*Mongolica: an international annual of Mongol studies* vol.18 (39), pp.191～194, 2006年（原文モンゴル語）

〔学会発表〕

- ・「アシグ章京の訴訟とその背景」2006年8月10日，第9回国際モンゴル学会議・第一分科会（於モンゴル国ウランバートル市）
- ・「フルンブイル（呼倫貝爾）の『アイマゲ』に関する聞き取り調査」（共同発表）2006年12月23日，東北アジア研究センター共同研究「東北アジア地域におけるモンゴルの歴史的位相に関する研究」第3回研究会（於東北大学）

(2) 教育・地域貢献等の活動

〔担当授業〕

アジア史特殊講義（三），アジア史講読（一），アジア史演習（一），地域歴史論（五）（家族・共同体論），歴史学基礎，モンゴル・遊牧を考える（教養・歴史学），北アジア遊牧民の歴史（教養・歴史学）

〔教育活動〕

- ・卒論指導：中国中世史，イスラム史をテーマとする卒業論文を指導した。
- ・歴史学3コース合同合宿（2006年6月3～4日：多賀城址，東北歴史博物館など）

〔地域貢献活動〕

- ・出張講義「モンゴル遊牧社会の過去と現在」(2006年9月28日、於南陽高校)

〔その他の活動〕

- ・学術講演会の開催：昨年度に引き続き、学部研究プロジェクト「冷戦後(旧)社会主義圏における歴史像形成に関する比較研究」の一環として、公開講演会(張永江先生「中国における近百年来の清史編纂事業と最新の進展状況」2007年1月11日)を企画・開催した。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では、科研費によって海外調査・国際学会発表をおこなった(モンゴル国：2006年8月4日～24日)ほか、その成果となる論文二編を発表した。

教育面では、教育委員として学科全体の教務を担当した。教養の講義内容を刷新したほか、他コースと合同で合宿や公開講演会などを企画し、授業時間外の学習機会を設けるよう努めた。

.....

法 経 政 策 学 科

法経政策講座(経済・経営系)

鈴木 均

(1) 研究成果

研究会報告等

合評会(榎本正敏著『21世紀 社会主義化の時代』(社会評論社、2006)のコメンテーターをつとめた(サンプラザ中野、2006年5月)

(2) 教育、地域活動

〔教育活動〕

山形大学における授業担当：

教養教育(経済学)、ヨーロッパ経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論演習(専門科目)、EU経済特論、EU経済特講(大学院)

非常勤講師：

法政大学経営学部(ヨーロッパ経済論演習)、法政大学大学院経済学研究科(ヨーロッパ経済特論)流通経済大学経済学部(国際経済論、ヨーロッパ経済論)

〔地域連携等〕

山形県9条の会・憲法ネットワークの代表委員を継続して勤めている。

(3) 平成 18 年度の教育・研究活動に関するコメント

遅れている研究成果の取りまとめが進まず、次年度を期すことにする。

立松 潔

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・「製造業における雇用動向と人材育成の課題」(『山形県の社会経済・2006年年報第19号』山形県経済社会研究所発行、pp.78-85)

〔研究ノート〕

- ・「教養セミナーの充実について ―アンケート分析を中心に―」（『山形大学高等教育研究年報』創刊号，2007 年 3 月）pp.76-84

(2) 教育，地域貢献等の活動

〔平成 18 年度の担当授業の紹介〕

- ・教養教育科目
 - 「生活の中の経済学」（経済学）前・後期
- ・他の教員との共同で担当する教養教育科目
 - 「現代社会の諸問題」（教育・福祉）：1 コマ担当
- ・専門教育科目
 - 「日本経済論」前・後期，「金融政策」後期，「日本経済論演習」通年（卒論指導も含む）
 - ・オムニバス科目（他の教員と共同で担当）の専門教育科目
 - 「総合政策講座Ⅰ」（公共政策）：2 コマ担当，「総合政策講座Ⅲ」（経済・経営）：1 コマ担当
- ・大学院
 - 「日本産業構造分析特論Ⅰ」，「日本産業構造分析特別演習」，「特別研究Ⅰ」
- ・その他
 - 「人文学部公務員試験対策講座」（平成 18 年 3 月～5 月実施）・・・企画・運営を担当したほか自ら論文演習 1 コマ，集団討論 5 コマを担当
 - 〔地域貢献活動（審議会委員，講義担当等）〕
 - ・山形県職業能力開発審議会委員
 - ・山形県労働委員会公益委員・会長代理
 - ・山形県建築審査会委員
 - ・山形大学まちづくり研究所と山形駅前大通り商店街振興組合の連携による公開講座『中心市街地活性化 まちづくり市民講座』企画・運営および第 3 回講座（山形市中心市街地の実態と課題），第 7 回講座（事例から学ぶ山形のまちづくり），第 8 回講座（シンポジウム）担当

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

特筆事項は地域連携の講座である「まちづくり市民講座」と人文学部の公務員講座の企画・運営に携わったことである。公務員試験対策講座は論作文と集団討論の指導を中心に実施し，13 名の講師により講義 2 コマ，論文演習 23 コマ，集団討論 13 コマを実施し，60 名弱程度の受講生を集めることができた。

國方 敬司

(1) 研究成果

「Sevenhampton マナの試行分析」，研究代表者・直江眞一（九州大学大学院法学研究院教授）『イギリス中・近世史資料の総合的研究―史料分析から歴史解釈へ―』平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））2007 年 3 月所収，pp.41-46.

(2) 教育，地域連携等の活動

〔山形大学での授業〕

西洋経済史，環境と経済，西洋経済史・環境と経済演習，市場経済と環境（一般教育）

〔東北公益文科大学での授業〕

環境経済学

〔審議会等〕

- ・比較家族史学会理事（1995 年～現在）

- ・社会経済史学会評議員（2001 年度～現在）
- ・山形県消費生活審議会委員
- ・山形市勤労青少年ホーム運営委員会委員
- ・山形市下水道料金審議会委員
- ・山形地方労働審議会委員
- ・山形新聞報道審査会委員
- ・山形県食の安全推進会議委員
- ・山形市清掃問題審議会委員

〔講演会等〕

- ・「ポジティブ・アクションで一人一人が活躍できる職場づくりを」ポジティブ・アクション普及促進セミナー（山形国際ホテル）2006 年 6 月 2 日（金）
- ・「残留農薬等のポジティブリスト制度が実施されて」パネルディスカッション・コーディネーター：食の安全フォーラム（遊学館）2006 年 7 月 19 日（水）
- ・鼎談「酒田港リサイクルポートセミナー in せんだい」仙台 2006 年 7 月 21 日
- ・パネルディスカッション・コーディネーター「我が社のポジティブ・アクションについて」ポジティブ・アクション普及促進セミナー（東京第一ホテル鶴岡）2006 年 12 月 8 日（金）

岩田 浩太郎

(1) 研究成果

〔報告書〕

- ・『平成 16～18 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書 近世近代移行期における大規模豪農と地域社会構造に関する総合的研究―羽州村山郡の事例―』（研究代表者岩田浩太郎，2007 年 3 月，全 51 頁）科学研究費補助金・人文学部プロジェクト研究
- ・平成 18 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）「近世近代移行期における大規模豪農と地域社会構造に関する総合的研究―羽州村山郡の事例―」（研究代表者）
- ・平成 18 年度人文学部プロジェクト研究「交易・交流からみた出羽の歴史文化Ⅲ―山形の地域特性の歴史的形成に関するフィールド研究―」（研究代表者），のち改組して，平成 18 年度人文学部代表プロジェクト研究「出羽山形の地域特性と交流圏に関する歴史文化研究―山形地域史の再構築―」（研究代表者）研究メンバー（岩田浩太郎・菊地仁・松尾剛次・三上喜孝）による研究会を 4 回開催

(2) 教育，地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- ・教養教育科目：労働者と農民（経済学），古文書を読む―村の歴史―（教養セミナー）
- ・専門教育科目：日本経済史，地域経済史，日本経済史演習，法経政策総合講座Ⅲ（兼トワイライト講座。オムニバス 1 回担当）
- ・大学院：日本近世史特論Ⅰ，日本近世史特別演習，歴史文化特別研究Ⅰ
- ・全学：附属博物館実習「歴史史料の解読」
- ・非常勤講師：山形県立米沢女子短期大学史学実習（オムニバス 1 回担当「地域史の個性を考える」）

〔委員会活動〕

- ・学部：学部入試委員会委員，学科入試小委員会副委員長（平成 20 年度学科入試改革の制度設計及び準備調整折衝，推薦入試必修科目未履修問題への対応など），人間学系人事選考委員会委員，学科人事調整委員会委員，学科定員削減対応方法検討ワーキンググループ委員，附属博物館長候補適任者推薦委員会委員，人文学部 2 年生アドバイザー教員
- ・全学：附属博物館運営委員会委員

〔講演・講座〕

- ・山形県高等学校社会科教育研究会村山支部総会講演「視点としての『奥羽の商都山形』論―山形城下町商業の歴史的な位置―」, 2006 年 5 月 17 日, 於山形県立山形西高等学校 (山形市)
- ・NHK 文化センター山形教室講座「紅花と豪農商の歴史―山形商業史を学ぶ―」(全 3 回), 第 1 回「村山地方の豪農たち―紅花と『のこぎり商い』―」, 2006 年 7 月 15 日 / 第 2 回「山形城下町の商人たち―東北にひろがる商圏―」, 2006 年 8 月 19 日 / 第 3 回「山形商業の歴史的な条件―繁栄と衰退―」, 2006 年 9 月 2 日 / 於 NHK 文化センター山形教室 (山形市)
- ・山形市中学校教育研究会社会部会講演「山形城下町と商人―山形商業の特徴―」, 2006 年 7 月 26 日, 於山形市立第十中学校 (山形市)
- ・(株)丸太中村社内講演会講演「創業期中村喜兵衛家における商業」, 2006 年 10 月 28 日, 於ホテルメトロポリタン山形 (山形市)
- ・(株)マルナカ中村商店創業祭講演「先人に学ぶ―山形商人の歴史― / 中村喜兵衛家の商業活動―創業期を中心に―」, 2007 年 2 月 11 日, 於(株)マルナカ中村商店本社

〔社会活動〕

- ・NPO 法人「柏倉家文化村」顧問 (柏倉本家・分家の歴史資料の調査研究・保存活用その他)
- ・奥羽史料調査会世話人 (宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など)
- ・山形大学所蔵古文書に関する市民からの問い合わせへの対応
- ・地域より依頼された旧家の古文書等資料調査・成果報告
- ・地域史研究者・市民から依頼された研究論文・地誌の作成執筆に関わる指導・助言

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、村山地方の旧家との信頼関係を築くことに努め、山形城下町商人や羽州村山郡の豪農商、京都紅花問屋などの実証研究を進めた。そのための古文書調査を県内及び全国各地で実施した。3 年間の科研費・基盤 C の研究成果概要を報告書にまとめた。人文学部の支援を受け、平成 16 年度より研究代表者として組織している地域史の研究プロジェクトを継続し、その企画と活動を総括した。人プロの小研究会を学部構成員に公開し、分野を超えた議論・交流の場となるように努めた。

教育では、指導院生(修士課程)を 3 名抱え、大学院教育に力を注いだ。日本経済史ゼミナールでは、柏倉本家・分家の古文書調査を進め、研究成果をご報告する活動を継続した。

委員会の活動では、入試委員としての活動が中心となった。とくに、平成 20 年度入試改革にむけた制度設計・準備調整・他学部他学科との交渉折衝に務めた。

社会活動では、地域史関連の講演・講座や問い合わせへの対応が増加し、企業や旧家、教員や市民との関係をひろげることができた。

安田 均

(1) 研究成果

〔研究会報告〕

- ・「能力主義の再規定」仙台経済研究会 (06.08.25, 東北大経済学部)
- ・「賃金労働者の個性と種差性」SGCIME 研究合宿 (07.03.18, 大学セミナーハウス)
- ・「書評コメント; 石井徹「IT 革命による労働力市場の変容」」SGCIME 研究合宿 (07.03.19, 大学セミナーハウス)

〔著書・論文〕

- ・「富士通新人事制度における成果主義と能力主義」『山形大学紀要(社会科学編)』第 37 巻第 2 号, 2007.2。

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔講義〕

経済原論（4 単位）、市場と組織（2 単位）、教養「教養セミナー」（2 単位）、「賃金の経済学」（2 単位）

社会科の教材研究 B（2 単位、立松潔・高橋良彰両氏との共同講義）

論作文講座（課外、講義 1 コマ、論作文 2 コマ）

〔ゼミ〕

経済原論演習（4 単位）

〔合同ゼミへの参加〕

東北学院大、宮城学院女子大との「三大学合同ゼミ」に学生を連れて参加（2006 年 7 月 8 日宮城学院女子大「少子高齢化について」、2006 年 12 月 2 日東北学院大「NHK 民営化問題」）。

〔地域連携〕

- ・放送大学面接講義（山形校にて、11 月 11 日 2 時間 15 分講義 3 コマ、12 日 2 時間 15 分講義 2 コマ）
- ・解説論文「山形県における経済格差」山形県経済社会研究所「山形県の社会経済・2006 年」（年報第 19 号、2006 年 11 月）
- ・解説記事「経済指標と解説」（連合山形「春季生活闘争方針」参考資料の H、2007 年 2 月）
- ・人文学部と山形県村山総合支庁との共同研究「山形・仙台圏交流研究会」
前期は講義時間と重なっていたため後期から参加した。当該年度の成果は 2007 年 3 月 3 日開催の「仙山交流シンポジウム」（霞城セントラル）にて西平直史氏が報告している。

(3) 平成 18 年度の研究、教育活動に関するコメント

当該年度よりすべての講義科目でパワーポイントによる講述、その配付資料およびまとめプリントによる復習というスタイルに移行した。学生からはわかりやすいとの評価を得たので、今後も続けたい。他方、「教養セミナー」は学生の発言乏しく授業評価の結果も芳しくなかった。テキストが難しすぎたように思われるので次回はテキスト選択を慎重に行ないたい。

合同ゼミは当該年度より年 2 度開催となった。他大学との交流は刺激になるとの学生の希望による。今後も参加を続けるつもりだが、他校開催の場合には、テーマが演習のそれと合致するとは限らないので、事前に学習するよう指導したい。

前年度より引受けた山形県経済社会研究所年報の執筆や経済指標の解説は研究の間口を広げてくれるので、時間の許す限り引受けたい。

是川 晴彦

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・「非同質的な不完全競争企業に対する物品税課税について」『山形大学人文学部研究年報』第 4 号、pp.101-112
- ・「クールノー企業に対する物品税課税の経済学的特徴について」『山形大学紀要（社会科学）』第 38 巻、第 1 号、pp.21-34

(2) 教育、地域連携等の活動

〔担当授業〕

- ・学部：価格理論・応用価格理論・価格理論演習・教養教育（工学部 B コース）
- ・大学院：公共経済学特論

〔地域貢献活動など〕

- ・高校へ出張講義（寒河江高校）

- ・山形市仕事の検証システム外部評価委員
- ・公開講座の講師「中心市街地活性化 まちづくり市民講座」(山形市)において講義 2 回、パネリスト 1 回を担当
- ・県財政に関するコメント (YBC のテレビニュース)

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

課税理論の研究では、前年度の研究を発展させて、非同質的な不完全競争企業を対象にして研究をすすめた。物品税課税が企業の生産量や利潤に与える効果について、課税前の均衡における市場占有率や需要曲線の形状と関連つけた分析結果を得ることができた。

中心市街地活性化の研究では、人文学部のプロジェクト研究に採択された。前橋市、川崎市などにおいて実態調査とヒアリングを行い、地域資源の活用や活性化政策について今後の研究に有益な情報や知識を得ることができた。この他、科研費の研究分担者として、気仙沼、須賀川の実態調査とヒアリングを行った。

教育に関しては、平成 18 年度も講義時の配付プリントの更新を行い、あわせて、諸事項の説明にあてる時間の見直しを行った。

田北 俊昭

(1) 研究成果

- ・Economics of On-Line Music: Trade-Off Between On-Line and Traditional Music Shops, *Proceedings* (CD-ROM), the 16th Biennial Conference of International Telecommunications Society, 2006.6
- ・保険契約手続きとコミュニケーションの経済学, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第 3 号, 平成 18 年 7 月
- ・多階層からなる政府システムの空間経済学—1 次元中心地システムの行政原理の経済学的検討, 山形大学紀要 (社会科学), 第 37 巻, 第 1 号, 平成 18 年 7 月
- ・中央・地方政府間の多階層構造を有する政府システムの 1 次元空間立地問題—グラフを用いた比較静学分析—, 山形大学紀要 (社会科学), 第 37 巻, 第 2 号, 平成 19 年 2 月

(2) 教育, 地域連携等の活動

授業では、経済学入門 (教養教育), 社会経済システム論, 社会システム計画学, 経済情報科学演習を担当している。地域連携としては、山形大学都市地域学研究所の公開講座において、「都市の成長を都市経済学から説明する—歴史・文学・文化・農業集積による山形の魅力と都市・地域の発展について」を講演するとともに、農林水産省の外郭団体である漁港漁場漁村技術研究所において、「商品およびサービス流通における現実空間とサイバー空間の選択事例と漁村への応用」の招待講演を行った。山形県飯豊町健康福祉課と連携して、高齢者の生きがいと生活機能, 高齢者交通に関する基礎調査を行うとともに意見交換を行った。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

本年度は、2 年に 1 度行われる国際情報通信学会北京大会の E-Entertainment のセッションの座長を務めるとともに研究発表を行った。その他、情報通信学会において、研究発表 (研究成果 3 参照) を行った。数編の論文の執筆を行うとともに、国際地域学会のジャーナルの *Papers in Regional Science* の査読を行った。教育については、授業の他、地域科学および交通・通信経済に関する卒業論文 6 編の研究指導を行った。

砂田 洋志

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・「棄却サンプリング連鎖を用いた場合の周辺尤度の推定—誤差項に t 分布を仮定した自己回帰モデルを例に一」, 山形大学紀要 (社会科学), 第 37 巻第 1 号, pp91-111.
- ・「閾値自己回帰モデルの日経平均株価指数への応用」, 大阪証券取引所, 先物・オプションレポート, 第 18 巻第 8 号, pp1-4.

〔学会報告〕

- ・「非線形モデルの経済データへの応用とモデル選択—ベイジアン・アプローチ—」という題目で 2006 年度日本統計学会 (2006 年 9 月 7 日, 東北大学) において報告した。

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

計量経済学, 統計学, 総合政策科学基礎演習, 専門演習

〔講演 (地域連携等)〕

中心市街地活性化まちづくり市民講座の講師, 2006 年 11 月 25 日, 於 山交ビル (山形市)

(3) 平成 18 年度の研究, 教育活動に関するコメント

計量経済学関係の研究では, 棄却サンプリング連鎖を用いた場合の周辺尤度の計算方法について理解を深め, その知識をもとに論文を書いた。さらに, 為替データを対象に何種類かの非線形モデルのパラメータをベイズ推定した上で, 周辺尤度などによって非線形モデルの比較を行い, その結果を学会報告した。

中心市街地活性化の研究では, 「東北地方の中小都市における中心市街空洞化の現状と活性化策」という題目の科学研究費補助金の分担研究者として, 気仙沼市, 奥州市, 白河市, 須賀川市へ行き, 調査した。

教育関係では, 講義ノートを配布するなどして, 学生の理解を深めることに力を注いだ。また, 専門演習では, 2 名の学生の卒業論文を指導した。

下平 裕之

(1) 研究成果

〔著書〕

- ・小峯敦編『福祉の経済思想家たち』(ナカニシヤ出版, 2007 年 3 月) 第 25 章「エスピン＝アンデルセン—福祉国家の類型化」を執筆

〔口頭報告〕

- ・「20 世紀初頭におけるケンブリッジ学派の消費者民主主義論」, 第 2 回ケンブリッジ学派研究会 (2006 年 11 月 3 日, 上智大学)
- ・“Cambridge economists on consumer's co-operation in the early 20th century”, 国際ワークショップ “Cambridge Schools of Economics” (2006 年 12 月 11・12 日, 一橋大学)
- ・「交流を導く—金山町中心市街地の道の駅的整備構想」山形大学最上広域圏連携タウンミーティング (2007 年 1 月 22 日, 新庄市)

〔その他〕

- ・国際ワークショップ “Marshall, Schumpeter, and Social Science” (2007 年 3 月 17~19 日, 一橋大学) にコメンテーターとして参加した

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔教育活動〕

- ・山形大学における担当授業：経済思想，経済学史，経済学史演習，法経政策学科基礎演習，地域づくり特別演習（夏季集中），まちづくり入門（教養セミナー）
- ・非常勤：羽陽短期大学（経済学）
- ・「公務員講座」における講義，小論文指導

〔地域連携活動〕

- ・高校での出張講義：仙台南高校（2006 年 7 月）
- ・山形テレビ「提言の広場」「まちづくり三法改正—どうする？まちづくり」に出演（2006 年 9 月）
- ・「中心市街地活性化まちづくり市民講座」（山形大学まちづくり研究所・山形駅前大通り商店街振興組合主催）での事例報告（2006 年 11 月）
- ・山形財務事務所における教養講話（2006 年 12 月）
- ・エリアキャンパスもがみタウンミーティングにおける研究報告（2007 年 1 月，新庄市）
- ・山形財務事務所財務モニター
- ・村山地域ランドデザイン推進会議委員
- ・大学コンソーシアムやまがた地域活動部会
- ・コンソーシアム学生交流会宿（2006 年 8 月，最上地方）の企画運営
- ・エリアキャンパスもがみ先進大学実地調査（ドイツ・リュネブルク大学）（2006 年 11 月）

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については，国際ワークショップでの報告準備と共著の執筆作業を平行して行うこととなり，報告を論文化する十分な時間が取れなかった。これについては次年度の課題としたい。また地域連携活動分野では，商店街との連携による公開講座，ドイツでの実地調査から大きな刺激を受けた。

殷 勇

(1) 研究成果

Y.Yin “Application similarity coefficient method to cellular manufacturing”, in *Manufacturing the Future: Concepts, Technologies & Visions*, Edited by Kordic, V., A. Lazinica and M. Merdan, Published by Advanced Robotic Systems International, pp.195-258, 2006.

(2) 教育，地域連携等の活動

まちづくり研究所のメンバー

鈴木 明宏

(1) 研究成果

- ・Farsighted Behavior Leads to Efficiency in Duopoly Markets, “Advances in Dynamic Games: Applications to Economics, Management Science, Engineering, and Environmental Management (Annals of the International Society of Dynamic Games),” Chapter 20, 378-396, Birkhauser, 2006 (with S. Muto).
- ・効率化インセンティブを考慮した税源移譲のシミュレーション— 移譲財源の違いがもたらす財政的影響について —, 日本経済研究（日本経済研究センター）56, 122-146, 2007（竹本亨・高橋広雅との共著）。

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・平成 18 年度における担当科目

専門：ゲーム理論，意思決定論，同 演習

教養：現代の経済理論，情報処理

・地域連携

山形・仙台圏交流研究会メンバー，まちづくり研究所メンバー

西平 直史

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・渡辺・西平：ドイツ語 Web-CALL システムの出題形式の検討—選択記述式と記述式の比較—；山形大学高等教育研究企画センター紀要，創刊号，42/49（2007）
- ・西平：時変むだ時間をもつ離散時間システムの安定条件—因果律を考慮した LMI 条件；山形大学人文学部研究年報，第 4 号，129/134（2007）

〔学会報告〕

- ・佐藤・西平・本多・渡辺：社会シミュレーションモデルの検討—個人差がもたらす影響について，2006 年度日本人間工学会・関東支部第 36 回大会講演集，197/198（2006）

(2) 教育，地域連携等の活動

〔教育〕

情報処理に関する科目（教養，学部の初級および上級），情報・システム論演習，専門基礎演習を担当した。

〔地域連携〕

山形・仙台圏交流研究会（山形大学人文学部地域連携室，山形県庁村山総合支庁）に参加した。また，その研究成果を仙山交流シンポジウムにおいて報告した。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では昨年度までに引き続いて，Web-CALL システムの開発に関する研究とむだ時間システムの安定条件に関する研究をおこなった。また，社会シミュレーションモデルに関する研究もおこなった。

教育では，情報処理に関する知識や技術を習得できるように講義をおこなった。

山口 昌樹

(1) 研究成果

〔口頭発表〕

- ・アジア政経学会 2006 年全国大会，慶應義塾大学日吉キャンパス，2006 年 10 月 28 日「アジアの国際シンジケート・ローン市場 —マイクロ・データによるシンジケート構造の分析—」

(2) 教育，地域連携等の活動

〔教育〕

- ・専門科目：金融論，国際金融システム，国際金融システム演習，証券市場論
- ・教養科目：ビジネス・エコノミクス（教養セミナー）
- ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

〔地域貢献〕

- ・山形仙台圏交流研究会に参加

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

獲得した科研費・若手 B「アジアにおける域内資金循環の解明」について早々に研究成果を学会で報告できた。講義負担、演習での指導学生数が増加した年でもあった。無事に乗り切れたことを人文学部の教職員の方々に感謝したい。

野田 英雄

(1) 研究成果

〔著書（分担執筆）〕

- ・大住圭介・川畑興求・筒井修二編『経済成長と動学』勁草書房、2006年9月。担当章：第2章「貯蓄率一定の経済成長モデル」（大住圭介と共著）

〔査読付き学術論文〕

- ・Hideo Noda “Human Capital, Expanding Product Variety and Sustained Growth,” *Information: An International Interdisciplinary Journal*, Vol.10, No.2, pp.209-224, March 2007.
- ・Koki Kyo and Hideo Noda “Bayesian Analysis of Cross-Prefectural Production Function with Time Varying Structure in Japan,” in A. Mohammad-Djafari, ed., *Bayesian Inference and Maximum Entropy Methods in Science and Engineering*, American Institute of Physics, pp.503-510, January 2007.

〔その他の論文〕

- ・大矢奈美・野田英雄「旭川市経済の構造変化について」『青森公立大学経営経済学研究』（青森公立大学），第12巻，第2号，pp.89-103，2007年3月。

〔口頭発表〕

- ・Kazunori Minetaki, Shingo Ohkuma, and Hideo Noda “Information Technology and Total Factor Productivity in Japan,” 5th International Conference of the Japan Economic Policy Association, Japan, December 2006, Aoyama Gakuin University.
- ・野田英雄 “Intellectual Property Rights and Cross-Country Income Differences,” 九州経済学会第56回大会，2006年12月，北九州市立大学。
- ・大矢奈美・野田英雄・姜興起「旭川市産業連関表からみた旭川経済の分析」東北経済学会第60回大会，2006年10月，青森公立大学。
- ・野田英雄・大矢奈美・姜興起「旭川市の産業構造分析」環太平洋産業連関分析学会第17回（2006年度）大会，2006年10月，沖縄国際大学。
- ・Hideo Noda and Koki Kyo “Economic Development and the Environment: A Macroeconomic Perspective,” International Symposium: Fields Crossing, Fusion and Development (International Symposium for Commemoration of Chinese Academy of Science and Engineering in Japan Establishment 10th Anniversary), Japan, October 2006, SGI Hall, Yebisu Garden Place Tower.
- ・大隈慎吾・野田英雄 “Growth, Convergence, and the Environment,” 日本地域学会第43回年次大会，2006年10月，千葉商科大学。
- ・峰滝和典・大隈慎吾・野田英雄 「IT化の進展と全要素生産性の分析」日本地域学会第43回年次大会，2006年10月，千葉商科大学。
- ・Koki Kyo and Hideo Noda “Bayesian Analysis of Cross-Prefecture Production Function with Time Varying Structure in Japan,” 26th International Workshop on Bayesian Inference and Maximum Entropy Methods in Science and Engineering, France, July 2006, Centre National de la Recherche Scientifique.
- ・峰滝和典・大隈慎吾・野田英雄 「開発援助の経済効果に関する実証分析」2006年度日本応用経済学会春季大会，2006年6月，福岡大学。

(2) 教育，地域連携等の活動

担当講義： 国民経済システム，法経政策学基礎演習

地域連携活動： 山形県経済動向研究会メンバー

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究面では，いくつかの成果を学術誌に公刊できたが，精緻化や拡張の余地が残されており，今後の課題としたい。また，教育面では，山形大学に赴任して初年度であったため，要領を得なかった部分があったと思われる。今後，学生のコメントや同僚の先生方のアドバイスを参考にしつつ，改善に努めていきたい。

緒方 勇（平成 19 年度着任）

(1) 研究成果

〔論文〕

・緒方勇「日本の製造業企業の無形資産形成要因についての実証分析」『会計』第 169 巻第 4 号，89—98 頁，2006 年。

・緒方勇「ブランド価値評価モデルの比較法について」『光陵女子短期大学紀要 CROSS CULTURE』第 23 号，109—128 頁，2007 年。

〔受賞〕

日本管理会計学会学会賞 奨励賞 受賞

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

企業の無形資産への投資活動とその成果に関する実証的な研究を行った。

法経政策講座（法律・政治系）

高木 紘一

(1) 研究成果

「労働基準法第 1 章総則一解説，第 1 条～2 条，第 5 条，第 7 条，別冊法セ・基本法コンメンタール労働基準法（第 5 版 有斐閣），12～14 頁，23～24 頁，30～32 頁 2006 年

(2) 教育，地域連携等の活動

〔教育活動〕

・専門科目：労働団体法（前期，4 単位），労働者保護法（後期，4 単位），労働法演習（通年，4 単位）

・教養科目：法学（「現代社会と人権」，2 単位，工学部 B コース）

・大学院：雇用関係法特論（前期，2 単位），雇用関係法特別演習（後期，2 単位）

労働法演習は，3，4 年生の合同ゼミとして実施している。前期は，最高裁判例の研究，後期は，4 年生については，卒業研究の報告・作成（個別論文又はグループ論文），3 年生については東北社会法合同ゼミへの報告準備を中心に運営している。

〔地域連携活動〕

労働関係紛争担当参与（山形労働局），簡易裁判所判事推薦委員会委員（山形地方裁判所），介護サービス苦情処理委員会（山形県国保連，委員長），山形県社会保障推進協議会（会長），山形県憲法会議（代表）等

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

・研究面では，とくに成果がみられなかった。

- ・教育面では、東北地方各大学の労働法ゼミ主催の東北社会法ジョイントゼミに今年も参加し、近時、労働立法として論議されている「ホワイトカラー・エグゼンプション問題」について、労働政策審議会での議論及び外国の制度との比較を中心に研究し、資料の収集、整理、分析課題の抽出等学生の自主的な研究意欲及び成果を引き出すことができ、また、比較法的研究も交えた報告は、好評を得た。また、この研究の成果を踏まえて、合同卒業研究として、「今日の日本における労働問題の現状と課題」について取り組む方向で進めている。

上野 芳昭

(1) 研究成果

上野芳昭他「信託法改正に対する一試論」『信託研究奨励金論集』第 27 号 21-44 頁（平成 18 年 11 月）

(2) 教育、地域連携等の活動

〔講義〕民法総論、債権各論、現代の契約法

〔演習〕民法演習 I

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

平成 18 年中は、1 月、3 月、11 月と、論考を 3 本出すことができた。

民法演習は、できる学生諸君のお陰で、議論を楽しむことができた。

澤田 裕治

(1) 研究成果

- ・カール・ギューターボック / 沢田裕治（訳）「十三世紀イングランド刑事訴訟の研究及び素描（三・完）」（『山形大学紀要（社会科学）』第 37 巻第 2 号，2007 年 2 月，pp. 33-54）
- ・沢田裕治「ベッドフォードシヤの私訴追について」（研究代表者・直江眞一『イギリス中・近世史資料の総合的研究』2007 年 3 月，平成 15 年度～18 年度科研研究成果報告書，所収）
- ・林智良＝阪上眞千子＝的場かおり＝沢田裕治「2006 年学界回顧 / 西洋法制史」（『法律時報』第 78 巻第 13 号，執筆担当「イギリス・アメリカ」，pp. 328-330）

(2) 教育、地域連携等の活動

- ・山形大学における講義・演習等：

教養教育科目：基礎から考える法学，基礎からの民法

専門教育科目：法経政策学科基礎演習，比較法制度論，比較法制度論演習，キャリア・ガイダンス（講義及びコーディネーターを担当）

その他：自主ゼミ「ドイツ語で考える法律学」を開講

- ・出張講義：福島東高等学校
- ・学部進路指導委員会副委員長として，企業訪問（福島，郡山，東京），インターシップ（法律事務所 2 名，司法書士事務所 1 名を派遣）等の活動を行ない，学生の進路指導に尽力した。
- ・講演会：水戸地方裁判所山野幸雄判事による「裁判員制度」の講演会（学部と法学会の共催）を企画し，責任者としてその準備・運営を担当した。
- ・山形県立保健医療大学における講義：法学
- ・山形県立産業技術短期大学校における講義：法学
- ・山形市立病院済生館高等看護学院における講義：関係法規

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究では、前年度に引き続き、カール・グユーターブックの研究を行ない、その成果として訳業を完結させることができた。J・M・ケイの著作等の研究に従事しつつ、私訴追についての研究を深化させた。また不法行為法の比較法の研究を継続した。

教育では、教養教育科目において、『対話 Dialogue』と題する学生同士と教員のミニコミ誌を毎回発行し、相互のコミュニケーションを図った。

北川 忠明

(1) 研究成果

〔論文〕

「共和主義の再審：共和主義と自由主義」, 日仏哲学会『フランス哲学・思想研究』, 第 11 号, 〔報告書〕

「分権化時代の地方自治体の将来像に関する市町村議会議員意識調査」, 山形大学法政論叢, 第 37, 38 合併号.

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- ・学部：『政治理論』, 『政治理論演習』, 『総合講座・』
- ・教養教育：『現代政治入門（政治学）』, 『教養セミナー』
- ・大学院：『現代政治論特論』, 『現代政治論特演』, 『特別研究・』
- ・その他：公務員講座講師

〔地域連携〕

- ・山形大学人文学部公開講座「これでいいのか日本」のコーディネーターと講師
- ・山形県庁主催「市町村合併シンポジウム」パネリスト 2 回（高畠町, 東根市）
- ・山形大学人文学部地域連携室長として地域連携活動を支援

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動では、現代フランスにおける共和主義の再審に関する動向について一応のまとめを行い、今後の歴史的研究の基礎を固めることができた。教育活動では、地方分権に関するテーマを中心に、演習指導、総合講座の講義、大学院の研究指導を行った。

高橋 和

(1) 研究業績

〔著書〕

- ・共著『拡大 EU 事典』小学館, 2006 年, 総頁数 303 頁
- ・共著『地域的公共性と地域ガバナンス』1-6 頁, 122-142 頁

〔口頭報告〕

- ・平成 19 年 2 月 1 日～2 日, 国際移民に関するシンポジウム（筑波大学・世銀プログラム）にパネラーとして参加
- ・平成 19 年 3 月 17 日, スラブ研究センター, 「EU の地域政策と下位地域協力」というテーマで報告

(2) 教育, 地域連携等の活動

〔教育〕

- ・専門科目：国際政治学, 国際関係概論, 地域の国際化, 国際政治学演習
- ・教養科目：東欧の政治（政治学）
- ・大学院：国際関係論特論, 国際関係特別研究を担当

〔地域連携〕

- ・山形県労働委員会公益委員
- ・山形労働局紛争調停委員
- ・山形労働局 最低賃金審議会公益委員
- ・山形県 薬事審議会 公益委員

(3) 平成 18 年度の研究・教育に関するコメント

研究面では、『拡大 EU 事典』を上梓することができたが、『EU スタディーズ』の出版が 19 年度にずれこんだために研究論文の公刊がなかった。

教育面では、大学院のモンゴルの留学生が環日本海学会（金沢大会）においてモンゴルの非核地位をめぐる研究について研究報告をおこなうための指導を行った。

北東アジアにおける核兵器の問題が議論になっている時期でもあり、一国だけ非核地位という珍しい事例であり、学会においても優れた研究成果として評価された。

藤田 稔

(1) 研究成果

「反トラスト法による抱合せ販売規制の新展開」山形大学紀要（社会科学）第 37 巻第 2 号 33-65 頁 2007 年 2 月 15 日発行

(2) 教育，地域連携等の活動

教育面では、「独占禁止法」「経済法」「経済法演習」「法学（法的なものの考え方と知的財産権）」「総合講座（公共政策）の 2 コマ分」を担当した。

人文学部主催の市民向け公開講座で、「競争政策を中心とした法制度改革」を担当した。山形県入札監視委員会委員長として、山形県の公共工事の発注が適正に行われるように努めた。山形県弁護士会綱紀委員会委員として、山形県の弁護士の弁護士倫理の実現に努めた。公正取引委員会協力委員として、独占禁止政策に関して、公正取引委員会に対して意見を述べた。山形労働局の紛争調整委員会委員として、労働紛争の円満な解決に努めた。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

競争政策に関して従来から行ってきた研究を深め、教育に生かすよう努めた。

金子 優子

(1) 研究成果

〔論文〕

- ・ Contracting-out in Local Governments in Japan. *Report of the Asia-Pacific Panel on Contracting-out in Local Governments*. March 31, 2006. pp.51-69.
- ・ Recent Major Administrative Reforms: Japan's Response to Global and Domestic Challenges. *Handbook of Globalization, Governance, and Public Administration*. CRC Press. July 25, 2006. pp.519-551.
- ・ Mechanism of E-Government Undertaking in Japan. *Encyclopedia of Digital Government*. Idea Group Reference. July 25, 2006. pp.1203-1211.
- ・ Postal Services and ICTs in Japan. *Encyclopedia of Digital Government*. Idea Group Reference. July 25, 2006. pp.1334-1341.
- ・ Contracting-out in Local Government in Japan, *Civil Society and Local Governance*, EROPA Local Government Center, 31 October 2006, pp179-195.

- ・「地域活性化における地方公共団体の役割」（2006）岡田浩一・藤江昌嗣・塚本一郎編著「地域再生と戦略的協働」2006年11月30日，ぎょうせい，pp21-46.
- ・Japan's Innovation of Public Organizations in the Research and Development Field. *Public Organization Review*. Volume 6, Number 4, December 2006. Springer Netherlands. pp329-346.
- ・「宇宙技術と行政の改革方策について」，季刊行政管理研究 117号 2007年3月25日，（財）行政管理研究センター，pp3-14.

〔国際会議での発表〕

- ・Introduction of New Systems for More Transparent and Accountable Government-The Japanese Case-, 3rd Regional International Conference of Administrative Sciences, July 16th - 20th 2006, Monterrey, Mexico.
- ・Project Proposal on Evaluating Government R&D from the Citizens' Perspectives - Background and Objectives-, 3rd Regional International Conference of Administrative Sciences, July 16th - 20th 2006, Monterrey, Mexico.

(2) 教育，地域連携等の活動

〔担当科目〕

行政学，自治体法，日本国憲法，技術進歩と行政，行政法演習Ⅱ，総合講座Ⅰ（公共政策），キャリアガイダンス（公務員制度），行政学特論Ⅰ・Ⅱ，行政学特別演習

〔人文学部公開講座での講義〕

「行政改革の手順と手続—小泉構造改革を中心として—」，2006年9月6日

〔外部での講演〕

- ・「未来の議会」，町村議会事務局長研究会，2006年11月1日，山形県自治会館602号室
- ・「地方自治制度改革と公共経営」，2006年度明治大学経営学部公開講座，2006年11月10日，明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン2階 A5・A6会議室

〔外部研修講師〕

- ・山形市職員研修「行政法研修」講師 2006年9月5日-7日
- ・「上級国家行政セミナー」における「社会経済の変化と行政改革」講師 2006年11月10日，JICA 幡ヶ谷国際研修センター

〔審議会委員〕

- ・山形県集中改革プランに関する第三者委員会委員長
- ・東根市情報公開・個人情報審査会委員
- ・村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究活動については，日本の行政改革に関する論文を海外の出版物に掲載することができた。

教育活動については，プレゼンテーションソフトを利用することにより分かりやすい講義となるように努めた。また，行政実務家を招請して行政の現場についての講義を行っていただき，大学教育と実社会との連携に努めた。

コーエンズ 久美子

(1) 研究成果

「信託法理と証券会社が預かる顧客資産の『帰属』」山形大学紀要（社会科学）第37巻第2号（平成19年2月）

(2) 教育，地域連携等の活動

〔平成 18 年度担当授業〕

商法総則・商行為法，手形法・小切手法，商法演習，法経政策学科基礎演習

〔地域連携活動〕

山形県消費生活審議会委員

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

証券の振替制度における口座記録としての証券の帰属につき，信託法理を基礎に理論構成することを試みた。それを踏まえ，証券の振替制度と技術的には同様の仕組みでありながら異なる法律構成により運営されている資金移動システムも含めた理論的展開の方向性を示唆した。

また教育面では，学生自身が他人に伝わるように「考えて書く」ということを通して，理論的な思考方法を身につけることに重点を置いた指導をした。

高橋 良彰

(1) 研究成果

「旧民法典中ボアソナード起草部分以外（法例・人事編・取得編後半）の編纂過程」2007年3月『山形大学歴史・地理・人類学論集』第8号

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

旧民法典編纂過程に関する研究中，やっておかなければならない部分についてまとめた。次年度の親族法講義を見据えた資料整理の意味もあった。

松本 邦彦

(1) 研究成果

- ・「山形県内市町村の国際化・国際交流・多文化共生施策をめぐって」『地域的公共性と地域ガバナンス：山形の視点から』（山形大学人文学部地域的公共性と地域ガバナンス・プロジェクト研究会）2006.12
- ・“Multicultural Symbiosis Measures and Foreign Residents in Yamagata”, International Symposium on Multicultural Families, March 2007, Multicultural Family Center of Pyeongtaek University, Korea

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・専門教育
アジア政治・外交論演習（通年），アジア政治・外交論（前期・後期），
アメリカ政治・外交論・後期，特別演習（前期）
- ・教養教育
民族と政治（政治学）（前期）
- ・大学院
国際政治特論（前期），国際政治特別演習（後期）
- ・公開講座
2006年9月「これでいいのか日本？：小泉構造改革とその後」第4回（外交）を担当。
- ・学外委員
特定非営利法人山形専門家ネットワーク女性支援基金運営委員（2005年8月から）
山形市自転車等駐車対策協議会委員（2005年2月から）

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

自治体事業調査のまとめができていないのが残念。2007 年度中には追加調査もおこなってまとめたいところです。

一方では庄内国際交流協会の山口吉彦さんのご紹介で、ソウルでおこなわれた多文化家族についての国際会議にて発表ができたことは、年度初めには予期せぬ成果でした。

立松 美也子

(1) 研究成果

[学術論文]

- ・「実効的国籍原則の変容—近時の国際司法裁判所事例を参考として」山形大学法政論叢 第 37・38 合併号 平成 19 年 1 月 pp.1-27.
- ・「国連人権理事会の成立」山形大学紀要（社会科学） 第 37 卷 第 2 号 pp.87-104

[その他]

- ・生命倫理及び人権に関する世界宣言（抄）『国際条約集 2007 年』有斐閣 平成 19 年 3 月 329 頁

(2) 教育，地域連携等の活動

国際法，国際人権論，国際法演習，教養教育担当。

赤倉 泉

(2) 教育，地域連携等の活動

- ・学部専門教育科目：中国の社会・文化演習，中国の社会・文化
- ・教養教育科目：中国語（人文），中国語（地教）

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

研究に関しては、これまでに引き続いて毛沢東時代の政治について研究を行った。教育に関しては、「中国の社会・文化」において、現代中国を多角的に紹介するよう心がけ、教材などを工夫した。教養教育・中国語では、テキストだけではなく DVD や CD を利用しながら授業を行った。

今野 健一

(1) 研究成果

- ・著書（単著）：『教育における自由と国家——フランス公教育法制の歴史的・憲法的研究』（信山社・2006.7）（377 頁）
- ・著書（共著）：「国家と公教育の関係の再定義—フランスの共和主義的学校法制の現況を中心に—」戸波江二＝西原博史編著『子ども中心の教育法理論に向けて』（エイデル研究所・2006.11）
- ・分担執筆：小林孝輔＝芹沢齊編『基本法コンメンタル・憲法〔第 5 版〕』（共著）（日本評論社・2006.4）〔版の変更に伴う加筆・修正〕
- ・書評：「永井憲一〔編〕著『憲法と教育人権』——永井教育法学の継承・発展の課題」『季刊教育法』150 号（2006.9）
- ・学会報告：「教育基本法『改正』案批判と対抗的な教育制度構想の可能性」憲法理論研究会・月例会報告（2006.9）
* 『日本教育法学会年報』32 号（2003 年）に掲載された論文（「教育権と教育基本法改正問題」）が、市川昭午編著『リーディングス日本の教育と社会 4・教育基本法』（日本図書センター・2006 年 11 月刊）に、編著者の解説入りで収録された。

(2) 教育，地域連携等の活動

[担当授業]

- ・学部専門科目：統治組織論，憲法演習Ⅱ，教育法，法経政策学基礎演習
- ・教養教育科目：日本国憲法
- ・大学院科目：統治組織論特論Ⅰ・Ⅱ 等

〔地域連携活動〕

山形県立中央病院治験審査委員会委員・同倫理委員会委員，山形市情報公開・個人情報保護審査会委員

〔その他〕

日本教育法学会年報編集担当幹事，『山形大学法政論叢』編集委員

(3) 当該年度の研究，教育活動に関するコメント

研究面では，博士学位論文の公刊を果たすことができた。昨年度から引き続き，日本教育法学会の学会年報編集幹事。教育面では，特筆すべき事項なし。地域連携面では，外部委員や高校との連携で例年並みの活動に従事した。また，憲法・教育基本法擁護の運動を展開する市民団体の依頼を受けて，各地で講演会・学習会の講師を務めた。

金澤 真理

〔著書〕

「名誉に対する罪」（分担執筆）伊東研祐，松宮孝明編『学習コンメンタール刑法』（日本評論社）pp.370-377（2007年4月）

〔論文〕

「更生保護施設の機能に関する一考察」山形大学法政論叢 37=38号，pp.1-26（2007年1月）

〔判例評釈〕

「放火罪の実行の着手時期」法学教室別冊判例セレクト 318号（2007年3月）

(2) 教育，地域連携等の活動

〔担当講義〕

刑法総論，法政策学，法政策学演習，法経政策学基礎演習，教養セミナー

〔審議会等〕

山形県個人情報保護制度運営審議会委員，山形市個人情報保護制度運営審議会委員，山形市男女共同参画社会推進協議会委員

〔出前講義〕

米沢興譲館高校（2006年6月）

〔講演等〕

山形地方検察庁男女共同参画に関する講演（2007年2月），山形市男女共同参画地域づくり講座（2007年3月）

〔その他〕

山形大学教養教育ワークショップコーディネータ（2006年8月），山形県大学ガイダンスセミナー（2006年8月）

(3) 研究，教育活動に関するコメント

昨年度より着手した名誉に対する罪の研究に引き続き取り組むと共に，従来から進めている未遂，中止未遂論及び更生保護施設に関する研究の一部を発表した。昨年度より担当している刑法総論の講義では，学生の自習を促す工夫をしているほか，少人数の演習やセミナーでは，課外活動を積極的に行うことで学習内容と実務との関連に関心を抱かせるよう努めた。

高倉 新喜

(1) 研究成果

- ・高倉新喜『『即決裁判』のもつ意味は何か』『法学セミナー』626号(2007年2月)6頁。寺崎嘉博編著『刑事訴訟法講義』(八千代出版, 2007年3月)69-81頁, 227-44頁 [高倉新喜]。

(2) 教育, 地域連携等の活動

- ・刑事訴訟法Ⅰ, 刑事訴訟法Ⅱ, 刑事訴訟法演習, 法経政策学基礎演習を担当。
- ・山形県立山形南高等学校で出張講義(2006年9月15日「法律学って何やるの?」)。

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

一事不再理の効力の客観的範囲に関する論文の執筆を目指しながら, 教科書やコンメンタール等の分担執筆を担当した。

早瀬 勝明

(1) 研究成果

- ・著書『ベーシックテキスト憲法』(共著, 法律文化社)
- ・論文「京都府学連事件判決の読み方」山形大学紀要(社会科学)37巻1号1頁
- ・論文「憲法理論は必要か」山形大学人文学部研究年報4号115頁
- ・判例評釈「介護保険料の徴収と憲法14条, 25条(最三小判平成18年3月28日)」『判例セレクト2006』(有斐閣)12頁
- ・判例評釈「国歌斉唱・ピアノ伴奏命令の違憲性(東京地判2006(平成18)年9月21日)」山形大学法政論叢39号47頁
- ・判例評釈「10.23通達以前の君が代ピアノ伴奏命令を合憲とした最高裁判決(最判平成19年2月27日)」山形大学紀要(社会科学)38巻1号55頁
- ・研究会報告・東京地裁平成18年9月21日判決, 東北公法判例研究会

(2) 教育, 地域連携等の活動

教育委員会委員
講義体験用模擬講義(2006年10月)

(3) 平成 18 年度の研究・教育活動に関するコメント

赴任3年目で, ようやく自分の仕事のペースをつかんだように思う。

和泉田 保一(平成 19 年度着任)

(1) 研究成果

平成 18 年 9 月 論説「イギリス計画許可制度の概要と近年の動向」東北法学 28 号.
その他, 東北大学公法判例研究会にて報告を行った。

.....

**Faculty of Literature &
Social Sciences,
Yamagata University
Annual Research Report**

Vol. 5

ADDENDUM

2006 Activity Report on Education and Research

FEBRUARY 2008

Faculty of Literature & Social Sciences
Yamagata University